

令和6年度
男女共同参画に関する中学2年生意識調査
報告書

令和7年3月

佐賀市

【 目 次 】

第1章	調査概要	01
第2章	調査結果の概要と考察	03
第3章	調査結果	09
	I. 回答者の属性	10
	1. 性別	10
	2. 同居している家族	10
	II. 固定的な役割分担意識に関する状況	11
	1. 「女（男）だから、…しなさい（するな）」と言われた経験	11
	2. 「女（男）だから、…しなさい（するな）」と言われたときの気持ち	12
	3. 「女（男）だから、…しなさい（するな）」と言われた相手	13
	4. 「女（男）だから、…しなさい（するな）」と言われた具体的内容（自由記述）	15
	5. 自身の固定的な役割分担意識	16
	6. 「男らしい」「女らしい」のイメージをもったきっかけ	19
	III. 家庭について	20
	1. 家庭内の役割分担の状況	20
	(1) 自身の家事頻度	20
	(2) 家族内で家事を主に行う人	24
	2. 家庭内における男女の差別について	29
	(1) 家庭生活の中で男女の差別を感じることの有無	29
	(2) 家庭生活の中で男女の差別を感じる具体的内容	30
	(3) 家庭生活の中で男女の差別を感じる具体的内容（自由記述）	32
	IV. 学校生活について	33
	1. 学校生活における男女の差別について	33
	(1) 学校生活の中で男女の差別を感じることの有無	33
	(2) 学校生活の中で男女の差別を感じる具体的内容	34
	(3) 学校生活の中で男女の差別を感じる具体的内容（自由記述）	36
	2. 生理に関する実態	37
	(1) 生理によって休みたいと思ったことの有無	37
	(2) 生理によって休んだことの有無	37
	(3) 生理による休みを我慢した理由	38
	V. 将来について	39
	1. 将来したい仕事	39
	2. 将来したい仕事を実現する上での性別の影響度	41
	VI. DV（ドメスティック・バイオレンス）について	42

1. DVの認知度	42
2.デートDVの認知度	42
VII. その他	43
1. 相談できる場所があるか	43
2. 男女共同参画の授業を受けた後の変化	43
3. 自由意見	44
第4章 調査票	45

第 1 章 調査概要

調査概要

1. 調査目的

中学1年生時に、『子ども向け条例パンフレット』を使用した授業を受けた中学2年生に対し、時間の経過による意識の変化を把握し、今後の子どもに対する男女共同参画の取り組みの基礎資料とする。

2. 調査対象

- (1) 母集団 佐賀市立中学校に在籍する2年生の男女
- (2) 標本数 1,847人

3. 調査時期

令和6年10月28日(月)～11月25日(月)

4. 調査方法

学校を通じた配布、インターネット回答

5. 有効回収数

配布数 1,847人
有効回収数 1,428人
有効回収率 77.3%

6. 調査の企画・実施等

調査主体：佐賀市政策推進部男女共同参画課

調査実施機関：株式会社サイズラーニング

7. 調査結果利用上の留意事項

- ・文章や表、グラフ中の回答割合(相対度数)は小数点第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならないことがある。
- ・2つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答割合の合計は原則として100%を超える。
- ・数表に記載された「n」は、回答割合算出上の基数(回答数)である。
- ・文中では選択肢(変数)を「 」で示した。選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところがある。
- ・図表に示す選択肢は文言を短縮して表記している場合があるため詳細は巻末の調査票を参照すること。

第 2 章 調査結果の概要と考察

調査結果の概要と考察

株式会社サイズラーニング 代表取締役 高見真智子
専任コンサルタント 黒木怜香

本調査は、男女共同参画の社会づくりに関する市民の意識と実態を把握し、これまで佐賀市が進めてきた施策の成果検証及び、第5次男女共同参画計画の策定資料とすることを目的に行った。特に中学生に対しては、佐賀市では中学1年生時に、『子ども向け条例パンフレット』を使用し、男女共同参画の理解を深めるための啓発授業を実施しており、授業を受けた中学2年生に対し、時間の経過による意識の変化を把握することも含め、今後の子どもに対する男女共同参画の取り組みの基礎資料とする。以下、設問テーマ別に、結果概要と考察を抜粋する。

1. 固定的な役割分担意識に関する状況

(1) 結果の概要

■「女/男だから」という主旨の発言を受けた経験がある生徒は2割

「女/男だから・・・しなさい(するな)」と言われた経験(問3)をみると、「ある」が21.4%。令和元年度よりも減少傾向にある。性別で比較すると、女性のほうが男性よりも「ある」の回答が6.7ポイント高い。また、言われた相手(問5)は「母親」が最も高く5割、次いで「父親」が3割となっている。また、女性のほうが「母親」、男性のほうが「父親」の割合が高く、特に同性の親から子どもに対して、ジェンダーバイアスに基づく発言がなされている傾向がみられる。さらに、言われた言葉の具体的内容(問6)をみると、「女の子なんだから家事や手伝いをしなさい」「男の子なんだから泣くな、我慢しなさい」等の言葉が多く挙がっている。

■「女は女らしく、男は男らしくしたほうがよい」の『否定派』は6割以上。男性では25.0%が『肯定派』

自身の固定的な役割分担意識(問7)をみると、『否定派』が6割を超え、令和元年度よりも20ポイント程度増加している。一方、「女は女らしく、男は男らしくしたほうがよい」という考え方に対する男性の『肯定派』は25.0%と、女性の『肯定派』よりも14.2ポイント高い。特に「女/男だから・・・しなさい(するな)」と言われた経験がある男性では、『肯定派』が33.3%と、男性の全体平均よりも8.3ポイント高い傾向がみられる。

■「男らしい」「女らしい」のイメージのきっかけは、服、おもちゃ、友達との遊び

「男らしい」「女らしい」のイメージをもったきっかけ(問8)をみると、「服」が76.5%と最も高く、次いで「おもちゃ」「友達との遊び」の順となっている。特に「服」では、女性のほうが男性よりも13.6ポイント高い。

(2)考察

以上の結果から、「女/男だから・・・しなさい(するな)」と言われた経験は減少傾向にある一方で、身近な親、特に同性の親から言われた経験をしている生徒は未だ2割程度存在している。また、生徒自身の固定的な役割分担意識はさらに改善傾向にあるが、「女は女らしく、男は男らしくしたほうがよい」という考え方については男性の肯定派が2割を超えている状況にある。特に「男だから・・・しなさい(するな)」と言われた経験のある男性の肯定派が増加する傾向がみられることから、「男らしさ」にまつわるジェンダーバイアスが、親世代から男の子へと世代を超えて継承されている可能性も示唆される。ジェンダーバイアスに関する親世代への啓発等も必要かもしれない。

2. 家庭について

(1) 結果の概要

■家庭内の家事を行うのは女性のほうがより男性よりも多く、主な担当者は「母親」

自身の家事頻度(問9)をみると、「食事の後片付け」や「掃除」等の日常的な家事の多くで『する』の割合が過半数を超え、令和元年度よりも増加傾向にある。また、「食事のしたく」「食事の後片付け」「洗濯」「日常の買い物」で、女性のほうが男性よりも『する』の割合が5～10ポイント以上高い。

また、家族内で家事を主に行う人(問10)をみると、すべての項目で「母親」が最も高いが、令和元年度調査と比較すると、家事項目や学校行事への参加については「両親どちらも同じ程度」が10ポイント程度増加している。

■家庭生活の中で「家事」の役割分担の偏りに男女差別を感じるとの回答がみられる

家庭生活の中で男女の差別を感じることの有無(問11)をみると、『感じる』との回答は13.8%と、令和元年度調査と同様の傾向がみられ、女性のほうが男性よりも9.4ポイント高い。また、具体的に差別を感じるのは「家事」が55.6%と最も高く、特に女性では67.2%と、男性よりも33.4ポイント高い。男女の差別を感じる具体的な内容(問13)をみると、特に両親の家庭内の役割分担の偏り(母親のみが家事負担を担っている等)に、男女の差別を感じるとの回答が多く挙がっている。

(2) 考察

以上の結果から、生徒の家事参画の状況は令和元年度よりもさらに高まっている状況にあるが、その役割を担うのは、より女性のほうが多い傾向がみられる。また、家庭内の家事の役割分担は主に「母親」に大きく負担が偏り、そうした状況に男女の差別を感じている傾向も読み取れる。特に女性は、「家事」に男女の差別を感じる割合が6割を超え、実際に自身の家庭内で、主に母親側のみが無償ケア労働に従事している様子に差別を感じていることが明らかである。上述のジェンダーバイアスに基づく発言のなかでも、特に女性には「女の子なんだから」手伝いや家事をするように、といった、家庭内の無償ケア労働を女性が率先して担うような働きかけが、身近な親や祖父母世代からもみられるため、家庭内で継承されてきた固定的な役割分担が、子ども世代へと引き継がれている可能性も考えられる。

3. 学校生活について

(1) 結果の概要

■学校生活の中で男女の差別を感じる生徒の割合は 20.4%

学校生活の中で男女の差別を感じることの有無(問 14)をみると、『感じる』の割合は 20.4%と、令和元年度と同様の傾向がみられる。差別を感じる内容(問 15)は、「先生の対応」が最も高く5割を占め、特に男性では 61.4%と、女性よりも 20.4 ポイント高い。具体的な内容(問 16)をみると、「先生の対応」では、性別によって態度や話し方、叱り方に違いがある、との回答が多く挙がっている。

■生理で休みたかったが我慢したことがある女性は 35.3%

生理によって休みたいと思ったことの有無(問 17)をみると、「はい」が約5割にのぼっている。生理によって休んだことの有無(問 18)をみると、「休んだことがある」が 54.4%、「休みたかったが我慢した」が 35.3%となっている。我慢した理由(問 19)を確認すると、「生理を理由に休んでいいと思わなかったから」「言い出せなかったから」が4割程度で上位に挙がっている。また、「成績や内申点に悪影響(あくえいきょう)が出ると思ったから」「試験やイベント、大会など、休みたくない日だったから」が3割程度となっている。

(2) 考察

以上の結果から、学校生活の中で男女の差別を感じる生徒の割合は 20.4%となり、第4次男女共同参画計画の目標値には未達の状況となっている。特に「先生の対応」に男女の差別を感じる割合が5割を占め、「男性と女性とで態度や怒り方や違う」ことに差別を感じているとの結果となっている。前述の「女/男だから…しなさい(するな)」と言われた相手(問5)でも「先生」の割合は 8.5%と確認され、「女性らしさ」を求める発言や、男性に対しては差別的な発言も一部みられることから鑑みると、生徒に対する教師の働きかけ方や指導方法が、性別によって無意識に異なっている可能性も示唆される。

また、本調査では初めて、「生理」に関する対応状況の実態を把握すべく新規項目を設定した。生理で休みたいと思った女性は5割、実際に休んだことのある女性も5割と、生理を抱えながら学校生活を過ごすことに困難や支障を抱えている女性がいることが考えられる。また、「休みたかったが我慢した」割合も3割を超え、その理由には、学校の成績や内申点、試験や大会等への影響を考慮している理由も挙げられている。近年「生理休暇」の導入・検討を進める大学や高校も出始めており、文部科学省は 2023 年に生理による欠席が理由で高校入試が不利にならないよう通知を発表するなど、生理と学業の両立推進の動きが加速しつつある。今回の調査結果をふまえ、佐賀市内でも生理と学業の両立を課題として設定し、新たな施策検討を行うことも有意義だろう。

4. その他調査項目

(1) 結果の概要

■将来したい仕事を実現する上で、性別が『影響する』との回答は3割を占める

将来したい仕事(問 20)は、女性は「幼稚園・保育園の先生」「看護師」「理容師、美容師」、男性は「スポーツ選手」「スポーツトレーナー等」「公務員」の順となり、性別で差がみられる。また、将来したい仕事を実現する上での性別の影響度(問 21)は、『影響する』との回答が31.0%と、令和元年度よりも4.0ポイント増加している。

■DVの認知度は8割を超える。困った時の相談場所を「知らない」が3割弱

DVの『認知度』(問 22)は84.8%と、令和元年度よりも9.1ポイント増加している。デートDVの『認知度』(問 23)は53.9%と、令和元年度よりも24.9ポイント増加している。また、困ったときに相談できる場所を知っているか(問 24)をみると「知っている」が68.6%、「知らない」が28.9%となっている。

■男女共同参画の授業を受けた後の変化が「あった」のは17.9%

男女共同参画の授業を受けた後の変化(問 25)をみると、「あった」が17.9%、「なかった」が14.5%、「わからない」が55.9%となっている。

(2) 考察

以上の結果から、将来の職業選択に性別で差があることがうかがえる。また、将来したい仕事を実現する上で、性別が『影響する』との回答が3割を占めている、という結果にも留意が必要である。

DVやデートDVに対する『認知度』は令和元年度よりも向上している傾向にあり、中学生の認知が広まっていることがうかがえる。困った時の相談場所については「知っている」が過半数を超えてはいるが、「知らない」との割合も3割弱となっているため、こうした層をできる限り減らすためのさらなる啓発促進も肝要だろう。

男女共同参画の授業を受けた後の変化については「わからない」が6割近くを占めているため、中学1年生時の効果測定を2年生時に行う、というプロセスの見直しも含め、施策の効果検証方法についてはさらなる工夫の余地があると思われる。

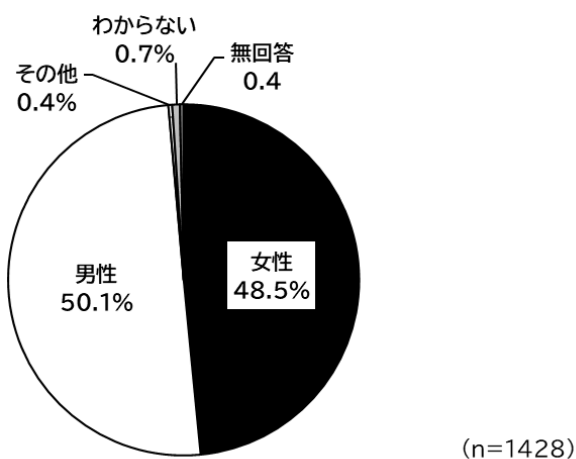
第 3 章 調査結果

I. 回答者の属性

1. 性別(問1)

性別をみると、「女性」が48.5%、「男性」が50.1%となっている。

図表 I-1 性別

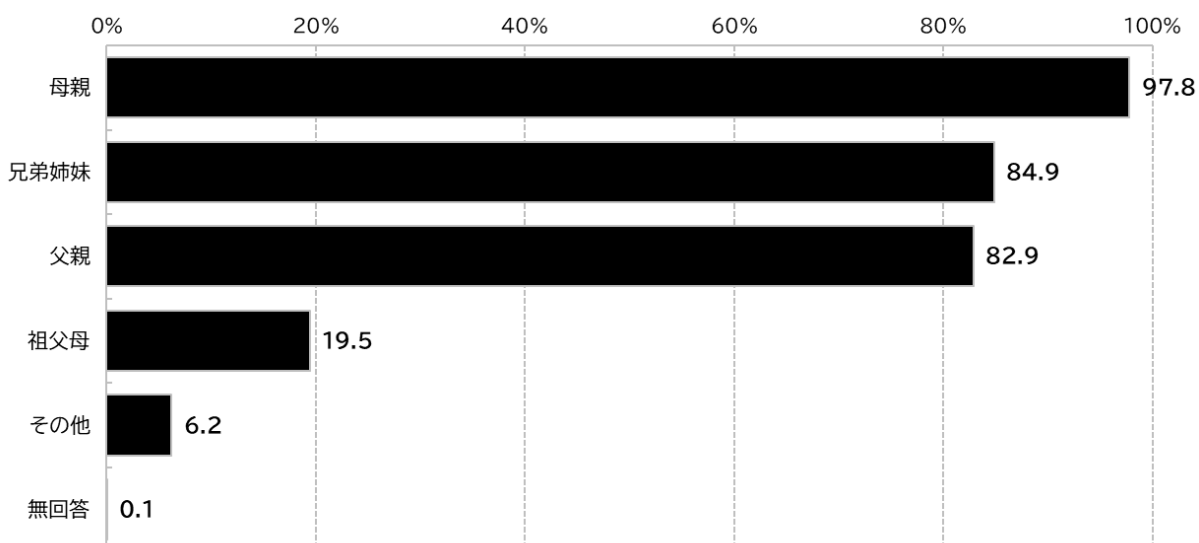


2. 同居している家族(問2)

同居している家族構成をみると、「母親」と回答した人が最も高く97.8%、次いで「兄弟姉妹」が84.9%、「父親」が82.9%となっている。

(n=1428)

図表 I-2 同居している家族



Ⅱ. 固定的な役割分担意識に関する状況

1. 「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われた経験

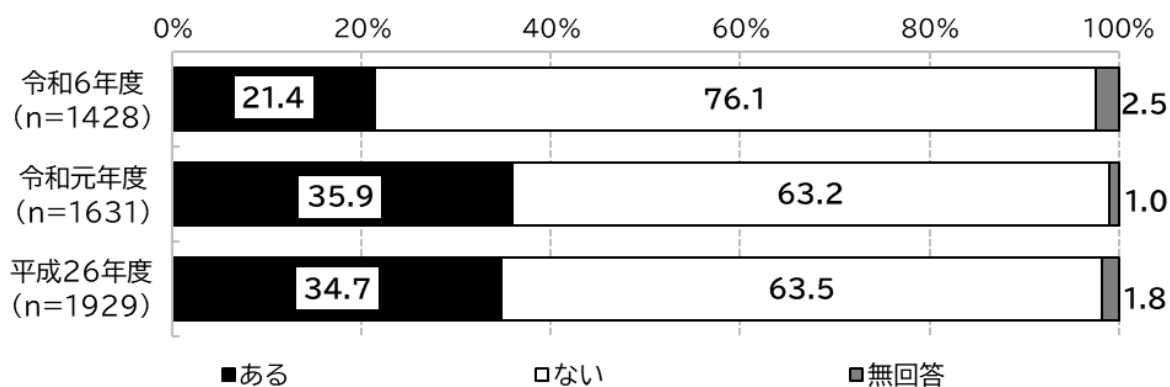
問 3. 「女/男だから…しなさい(するな)」と言われたことがありますか。

「女/男だから…しなさい(するな)」と言われた経験をみると、「ない」が76.1%、「ある」が21.4%となっている。

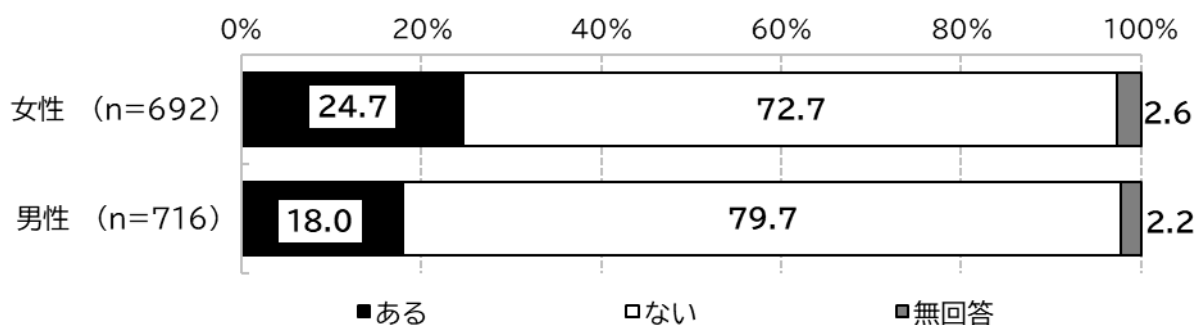
令和元年度調査と比較すると、「ない」が12.9ポイント増加している。

性別で比較すると、女性のほうが男性よりも「ある」が6.7ポイント高い。

図表Ⅱ-1 「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われた経験



図表Ⅱ-2 「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われた経験(性別)



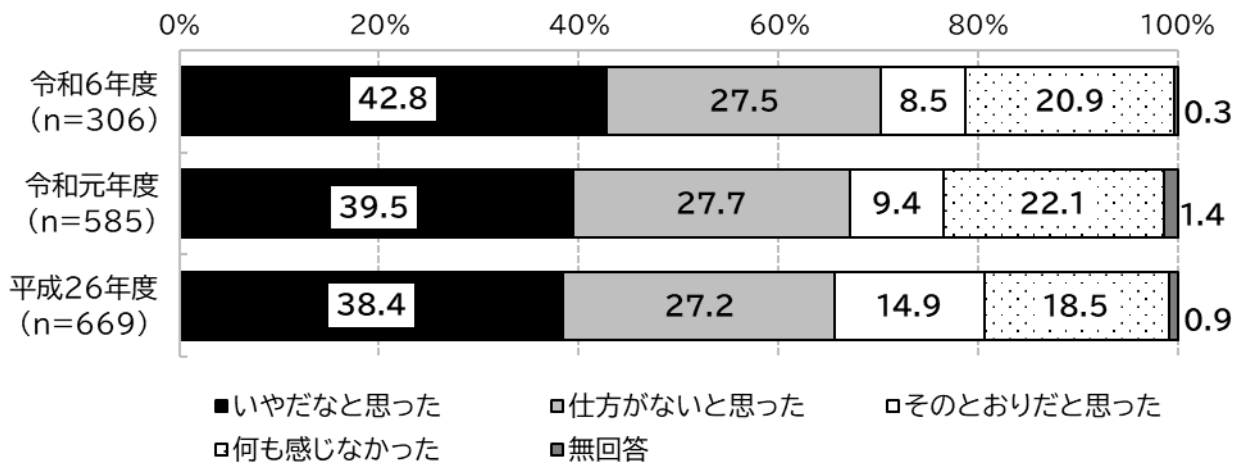
2.「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われたときの気持ち

問 4. そう言われた時、どう思いましたか。

「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われたときの気持ちを見ると、「いやだなと思った」が最も高く42.8%、次いで「仕方がないと思った」が27.5%、「何も感じなかった」が20.9%となっている。

令和元年度調査と比較すると、有意な差はみられない。

図表Ⅱ-3 「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われたときの気持ち



3.「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われた相手

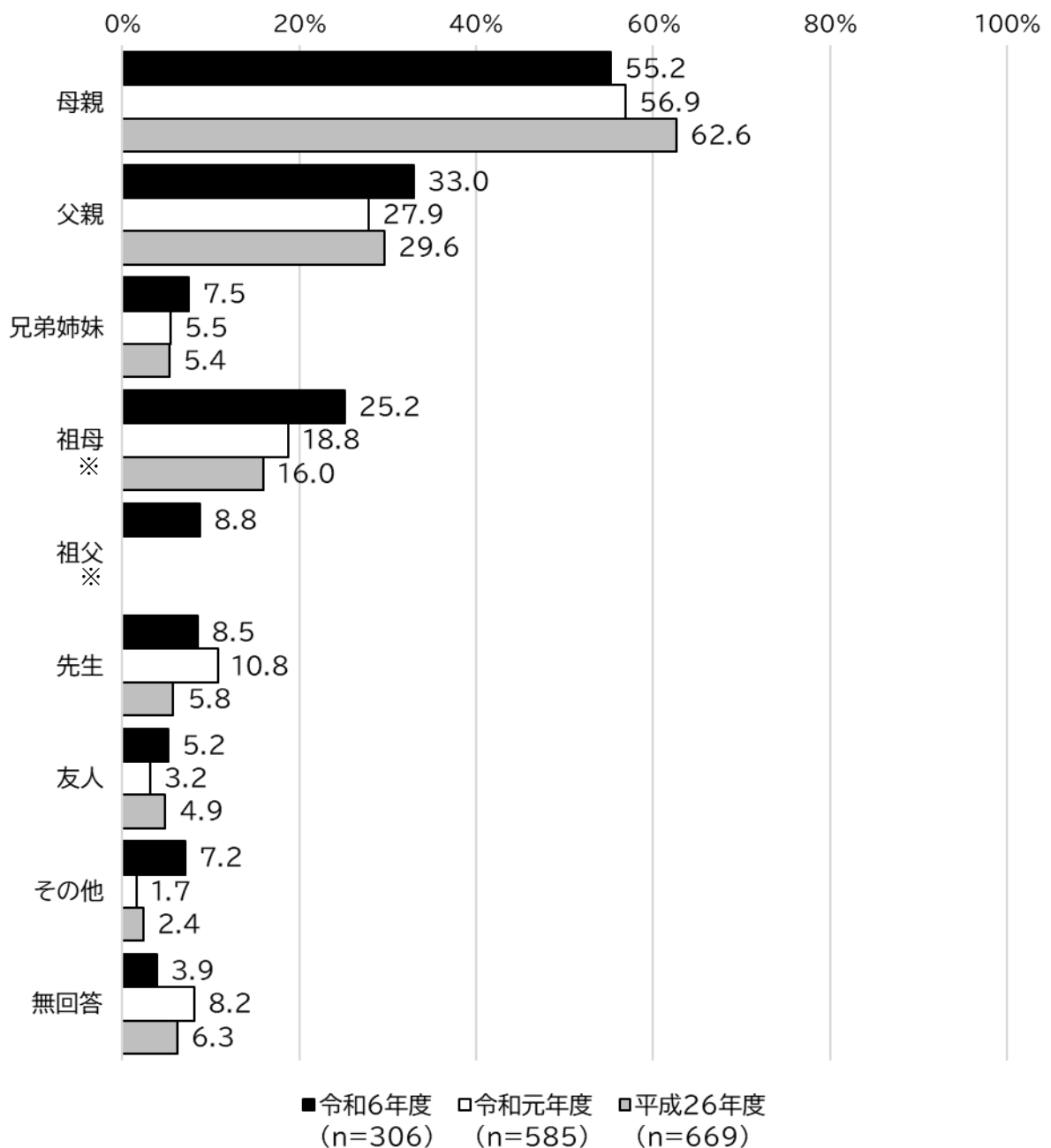
問 5. 誰から言われましたか。あてはまるものすべてお選びください。

「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われた相手を見ると、「母親」が最も高く 55.2%、次いで「父親」が 33.0%、「祖母」が 25.2%となっている。

令和元年度と比較すると、「父親」が5.1ポイント増加している。

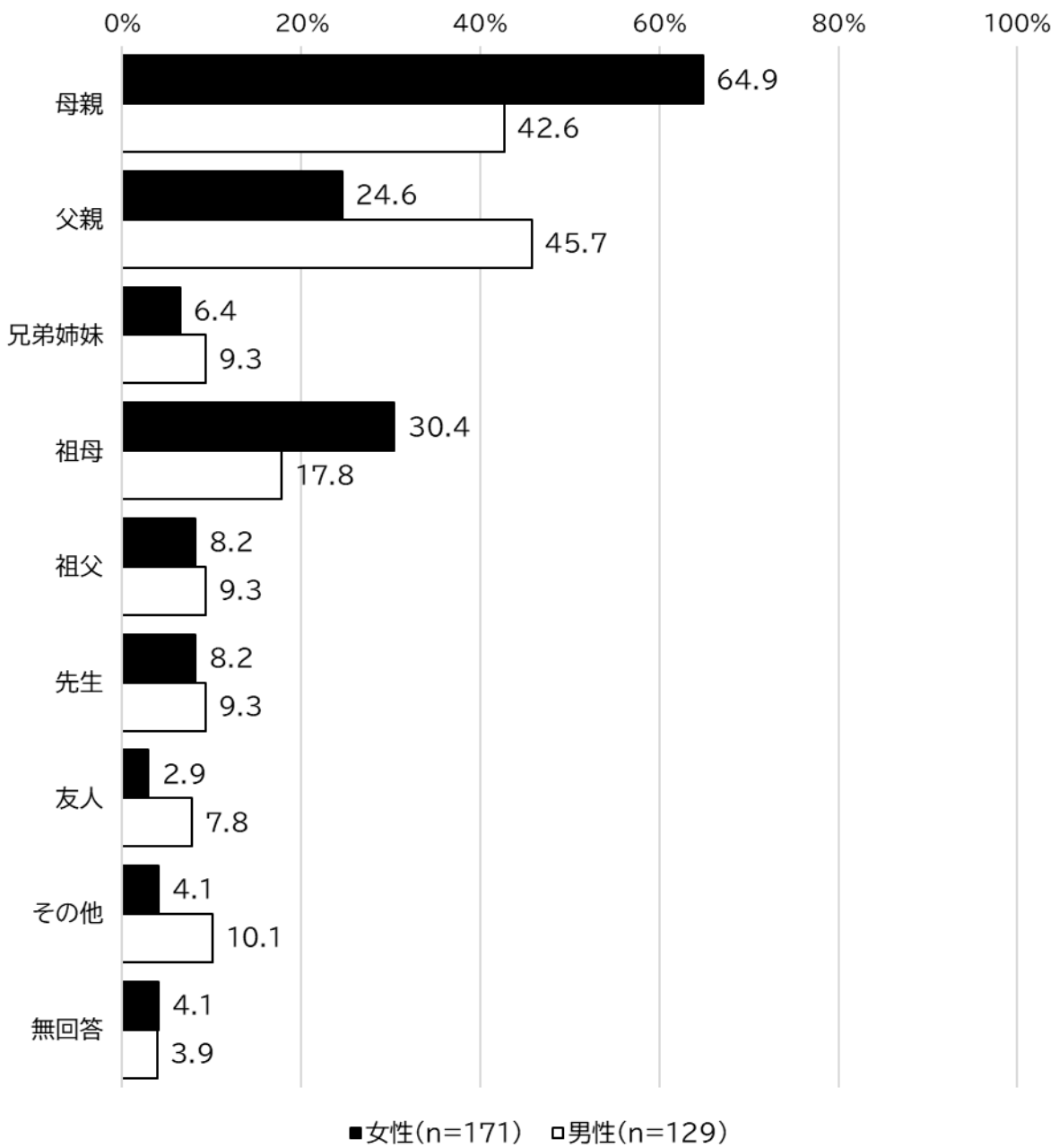
性別で比較すると、女性のほうが男性よりも「母親」が 22.3 ポイント高い。また、男性のほうが女性よりも「父親」が 21.1 ポイント高い。

図表Ⅱ-4 「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われた相手



※「祖母」は令和元年度・平成 26 年度調査では「祖父母」という選択肢を使用。「祖父」は新設項目

図表Ⅱ-5 「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われた相手(性別)



4.「女(男)だから、…しなさい(するな)」と言われた具体的内容(自由記述)

問 6. 言われた言葉を具体的に教えてください。

図表Ⅱ-6 言われた言葉(一部抜粋)

	女性	男性
母親	<ul style="list-style-type: none"> ・女の子なんだからお手伝いをしなさい ・女の子なんだから、言葉遣いをしっかりしなさい ・女の子なんだから足を閉じなさい (合計 95 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・男は泣くな ・男だから頑張れ ・男ならちゃんとしろ (合計 38 件)
父親	<ul style="list-style-type: none"> ・女だから制服はスカートにしなさい ・顔とか気にする前に性格を綺麗にしろ ・女なのに男より髪の毛が短いんじゃない？ (合計 31 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・男ならもっと強くなれ ・嫌なことから逃げるな、男だろ？ ・男の子だからぬいぐるみを買うな (合計 44 件)
兄弟姉妹	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと見た目に気をつけて ・女なんだから家事をできるようにしときなさい (合計 6 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・男なんだからすぐ泣くな ・男だろ (合計 9 件)
祖母	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみを整えなさい ・女だから清潔にしなさい、掃除しなさい ・女だから、愛嬌を大事にして (合計 41 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子なんだから虫なんて怖がるな ・男だから我慢して ・男だから重いものぐらい持ちなさい (合計 18 件)
祖父	<ul style="list-style-type: none"> ・女だから手伝え ・女の子だから勉強しなさい ・女の子だから家事をしっかりとできないと (合計 9 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・男ならたくさん食べなさい ・勉強しなさい (合計 9 件)
先生	<ul style="list-style-type: none"> ・女なんだから料理好きなんだよね ・おしとやかに生きなさい ・女性らしく振舞え (合計 11 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・男子だから日陰じゃなくていいだろ ・男だからパンツみられてもいいだろ ・男だから言うことを聞け (合計 10 件)
友人	<ul style="list-style-type: none"> ・女なんだから髪を長くしなよ ・もっと話し方とか気をつけなさい ・女の子らしくない (合計 5 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・男だから見られてもいいだろう ・男だからやらないと (合計 8 件)

5. 自身の固定的な役割分担意識

問7. 次の考えについてどう思いますか。

自身の固定的な役割分担意識をみると、「女は女らしく、男は男らしくしたほうがよい」では、『否定派』（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計）が最も高く66.5%、次いで『肯定派』（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）が18.1%、「どちらともいえない」が14.9%となっている。

令和元年度調査と比較すると、『否定派』が26.8ポイント増加している。

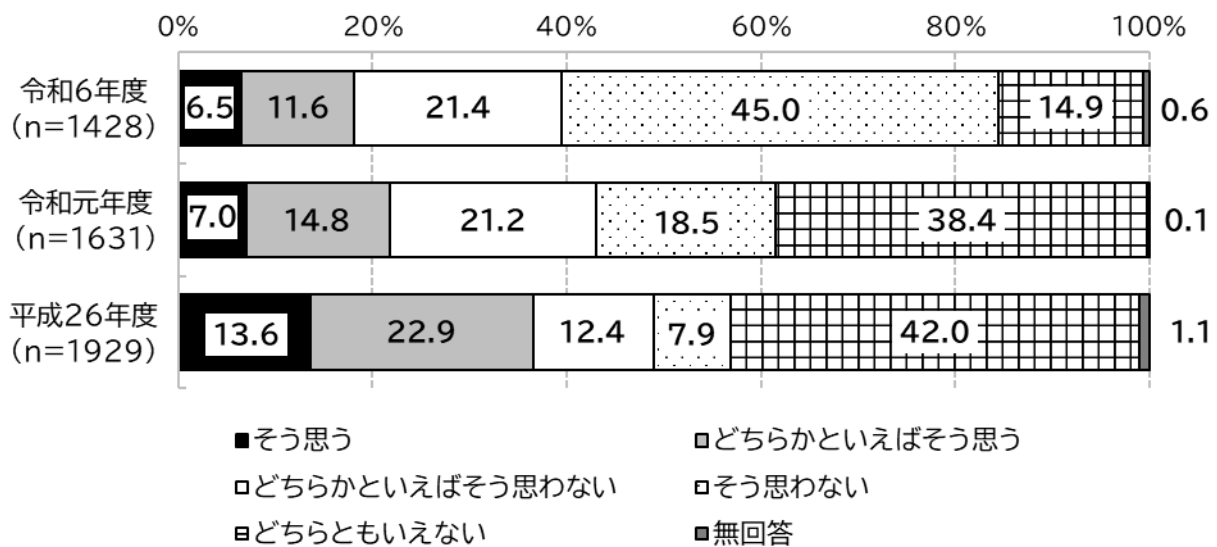
性別で比較すると、女性のほうが男性よりも『否定派』が21.1ポイント高い。また、男性の方が女性よりも『肯定派』が14.2ポイント高い。

「女性は家庭で家の仕事を行い子どもを育て、男性は外で仕事をして収入を得るのがよい」では、『否定派』が最も高く74.3%、次いで「どちらともいえない」が13.1%、『肯定派』が10.6%となっている。

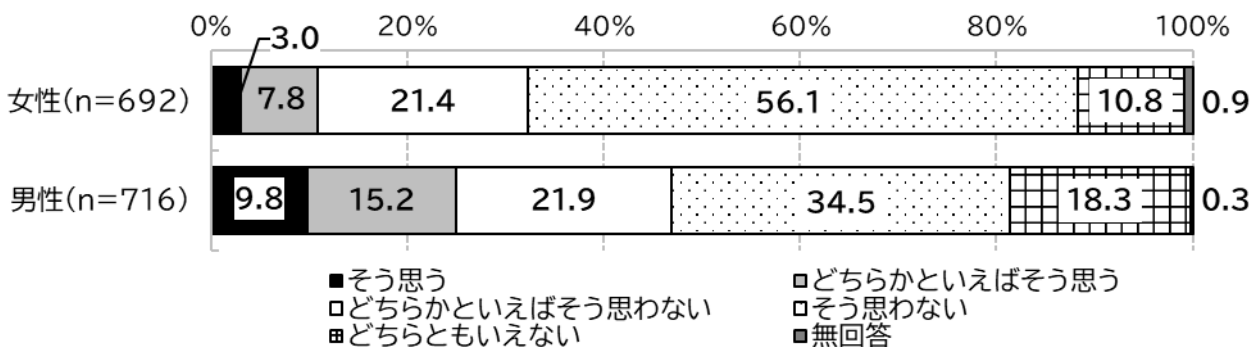
令和元年度調査と比較すると、『否定派』が17.6ポイント増加している。

性別で比較すると女性のほうが男性よりも『否定派』が14.3ポイント高い。

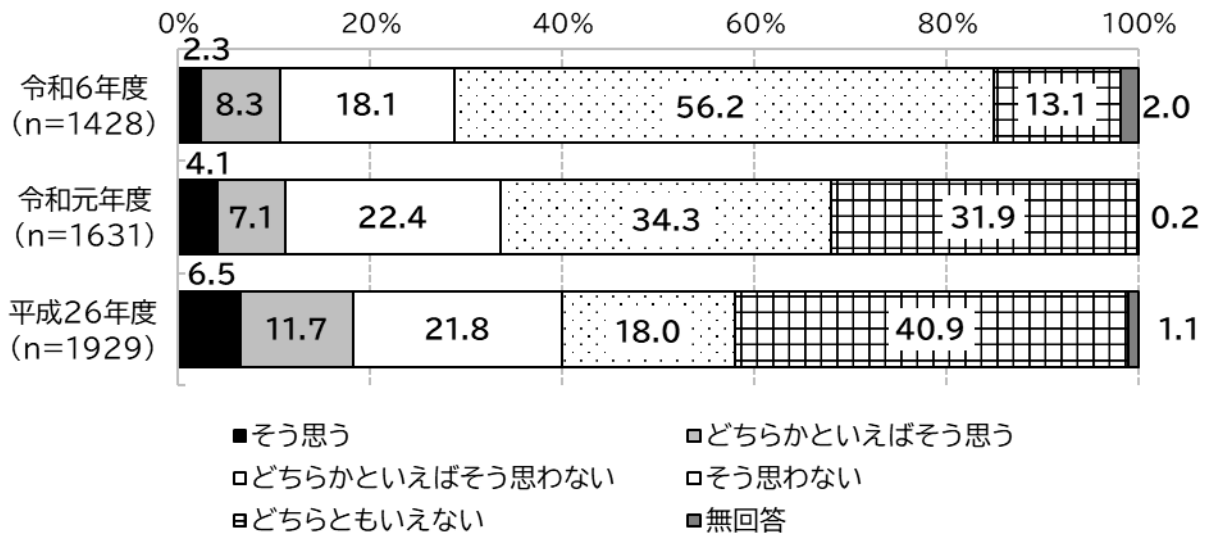
図表Ⅱ-7 「女は女らしく、男は男らしくしたほうがよい」という考え方について



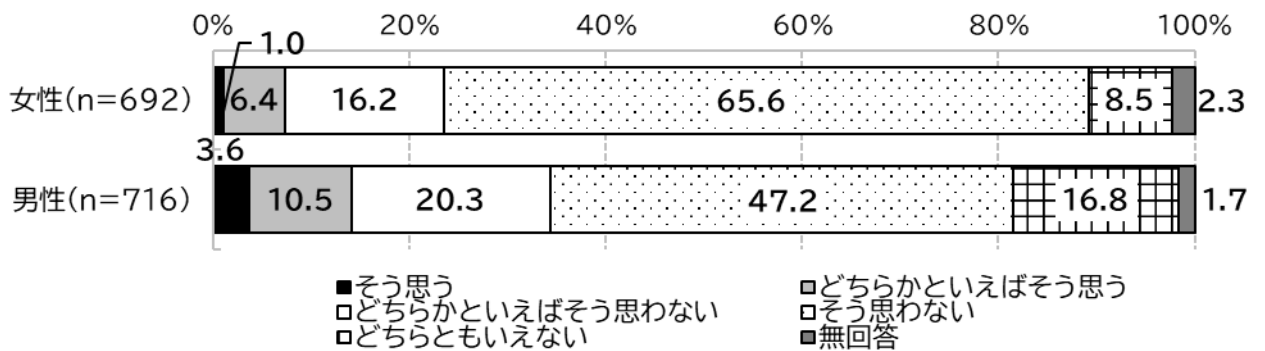
図表Ⅱ-8 「女は女らしく、男は男らしくしたほうがよい」という考え方について(性別)



図表Ⅱ-9 「女性は家庭で家の仕事を行い子どもを育て、男性は外で仕事をして収入を得るのがよい」という考え方について



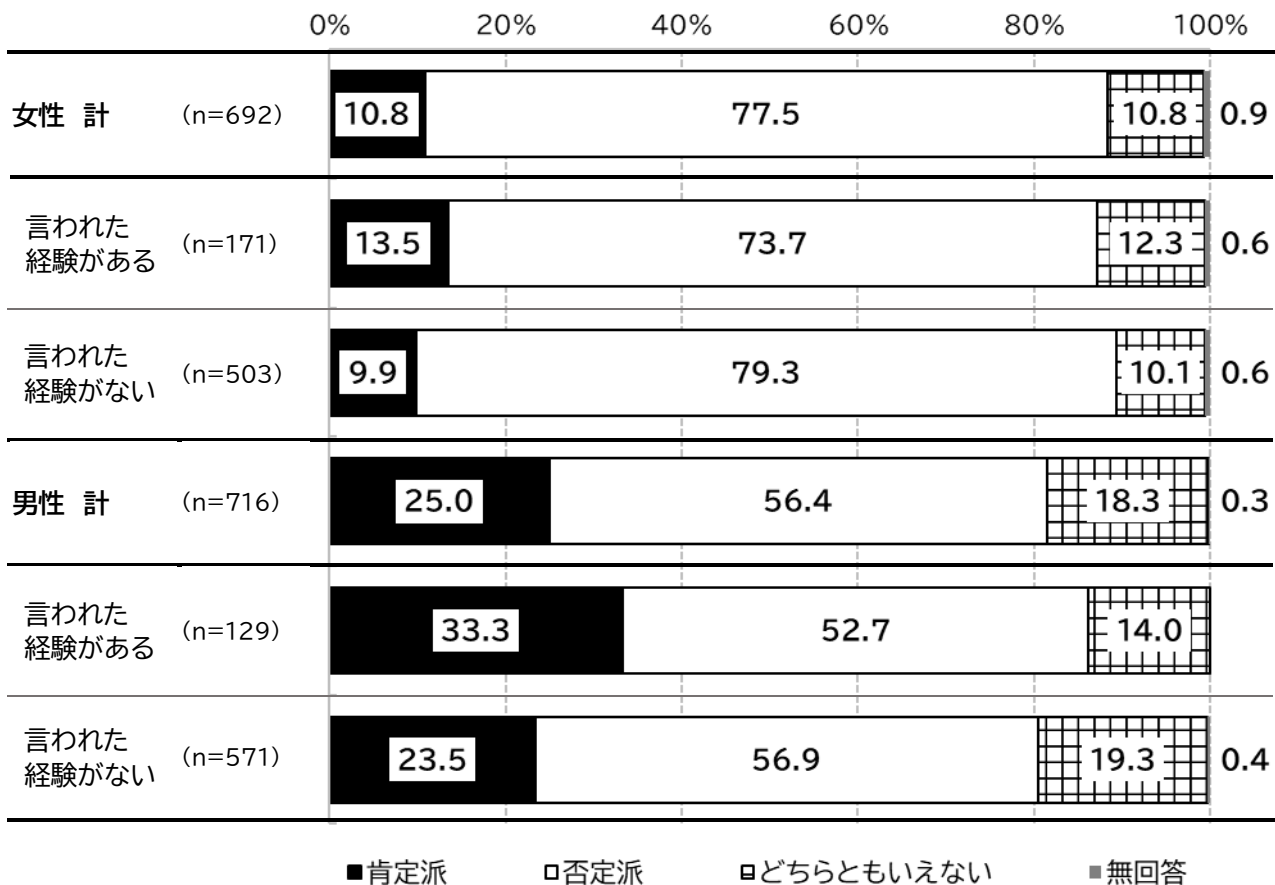
図表Ⅱ-10 「女性は家庭で家の仕事を行い子どもを育て、男性は外で仕事をして収入を得るのがよい」という考え方について(性別)



■ 自身の固定的な役割分担意識(「女(男)だから、…しなさい」と言われた経験別・性別)

「女は女らしく、男は男らしくしたほうがよい」を、問3の「女(男)だから、…しなさい」と言われた経験別・性別にみると、「女(男)だから、…しなさい」と「言われた経験がある」男性は、「女は女らしく、男は男らしくしたほうがよい」という考え方に対する『肯定派』が33.3%と、男性の全体平均よりも8.3ポイント高い。

図表Ⅱ-11 「女は女らしく、男は男らしくしたほうがよい」という考え方について
(性別・「女(男)だから、…しなさい」と言われた経験別)



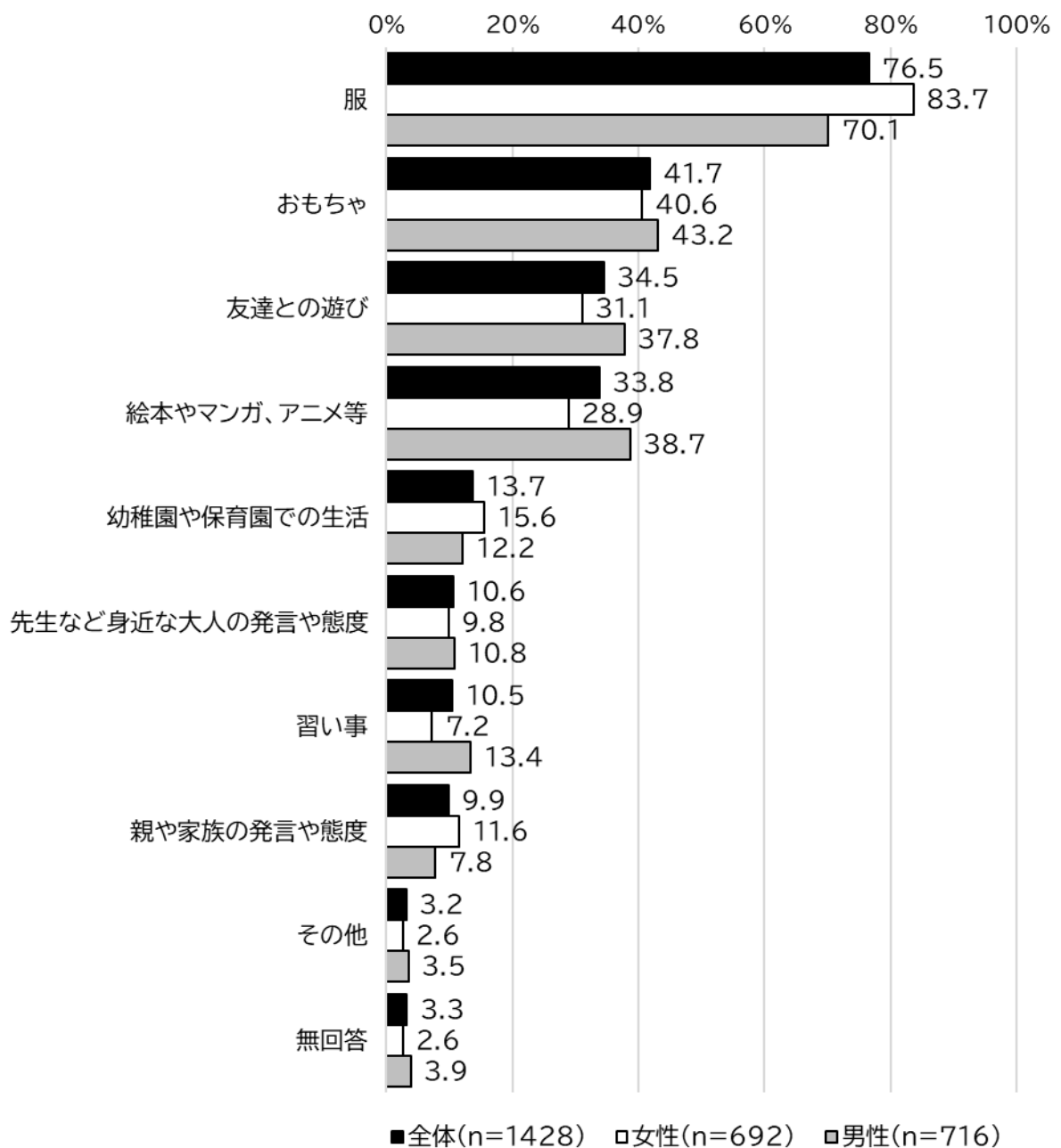
6.「男らしい」「女らしい」のイメージをもったきっかけ

問8. 幼い頃に「男らしい」「女らしい」のイメージをもつきっかけになったものはありますか。

「男らしい」「女らしい」のイメージをもったきっかけについてみると、「服」が最も高く 76.5%、次いで「おもちゃ」が 41.7%、「友達との遊び」が 34.5%となっている。

性別で比較すると、女性のほうが男性よりも「服」が 13.6 ポイント高い。

図表Ⅱ-12 「男らしい」「女らしい」のイメージをもったきっかけ



Ⅲ. 家庭について

1. 家庭内の役割分担の状況

(1) 自身の家事頻度

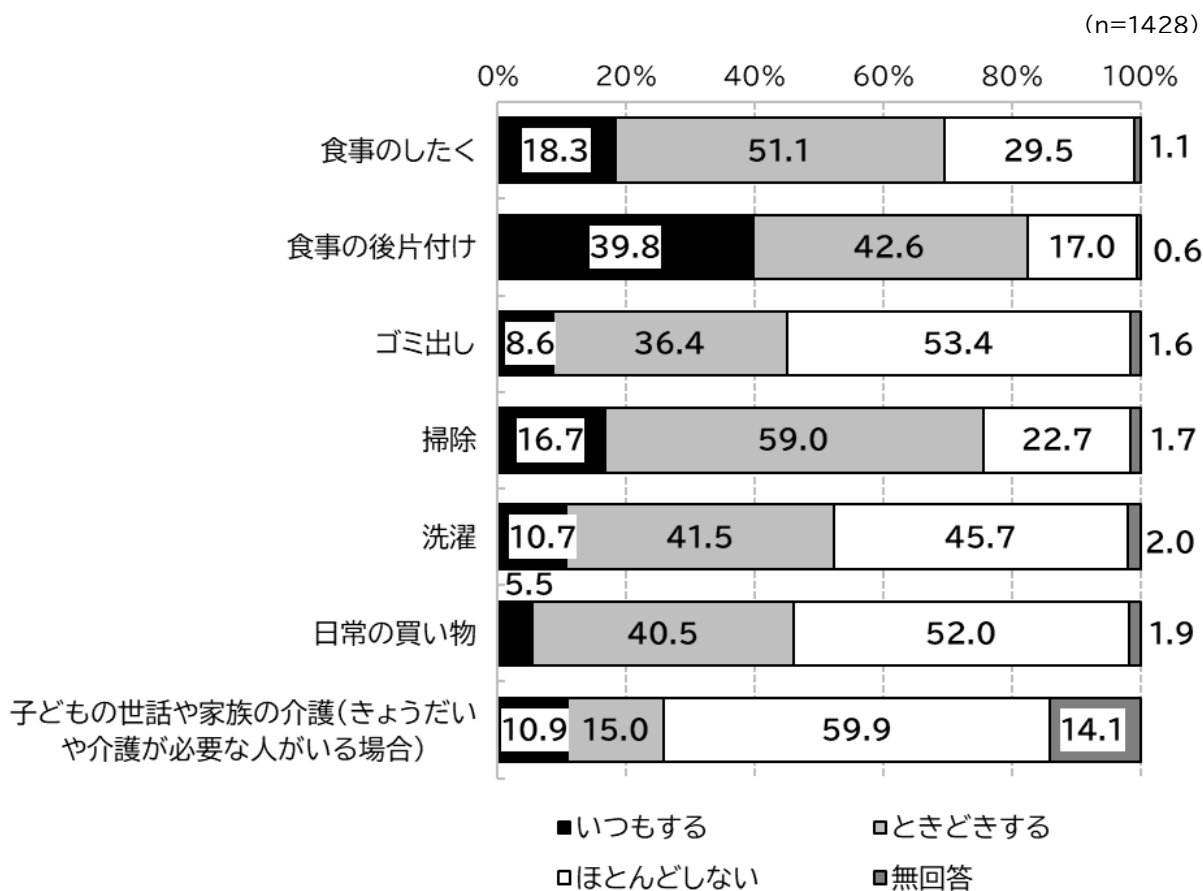
問 9. あなたは、以下の家の役割をどのくらい行っていますか。

自身の家事頻度をみると、『する』（「いつもする」と「ときどきする」の合計）は「食事の後片付け」が最も高く82.4%、次いで「掃除」が75.7%、「食事のしたく」が69.4%となっている。

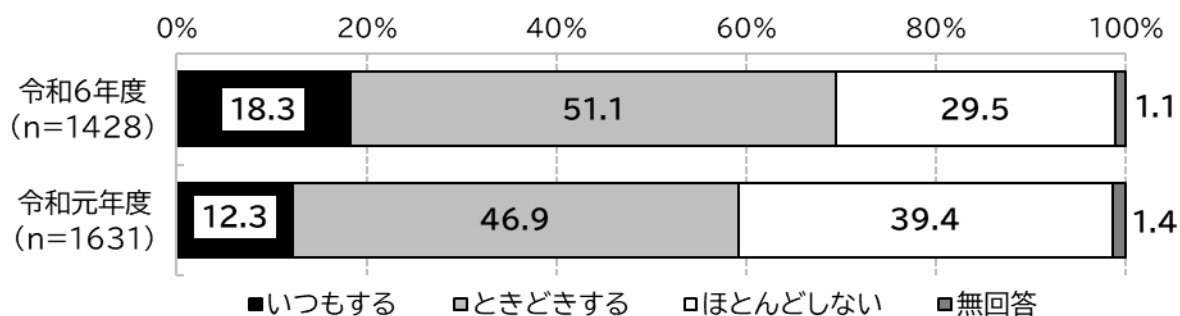
令和元年度調査と比較すると、すべての項目で『する』が増加している。項目別にみると、「食事のしたく」では10.2ポイント、「食事の後片付け」で6.8ポイント、「ゴミ出し」で6.2ポイント、「掃除」で4.8ポイント、「洗濯」で6.1ポイント、「日常の買い物」で11.3ポイント、それぞれ増加している。

性別で比較すると、「食事のしたく」「食事の後片付け」「洗濯」「日常の買い物」で、女性のほうが男性よりも『する』が5～10ポイント以上高い。

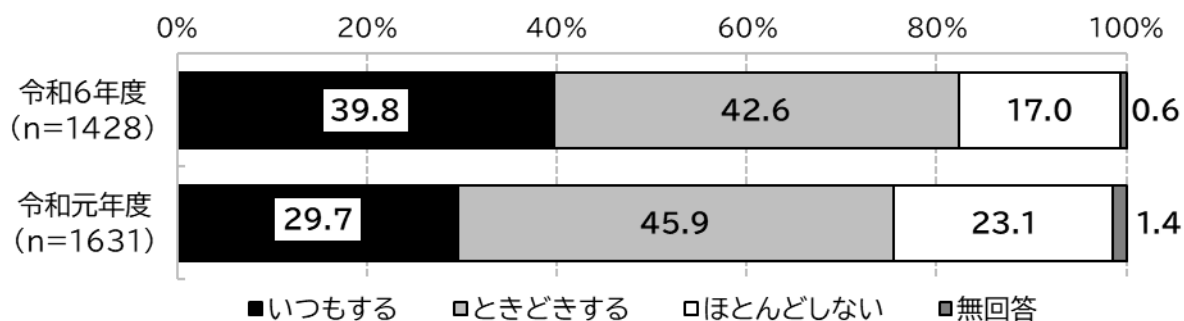
図表Ⅲ-1 自身の家事頻度



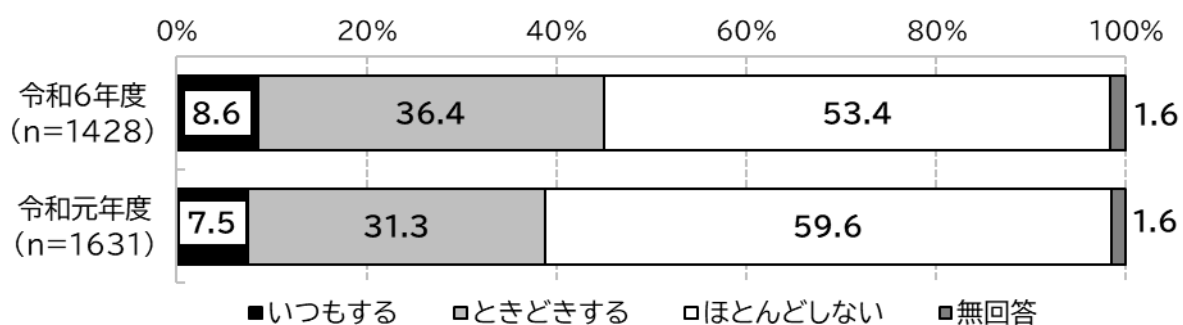
図表Ⅲ-2 自身の家事頻度【食事のしたく】



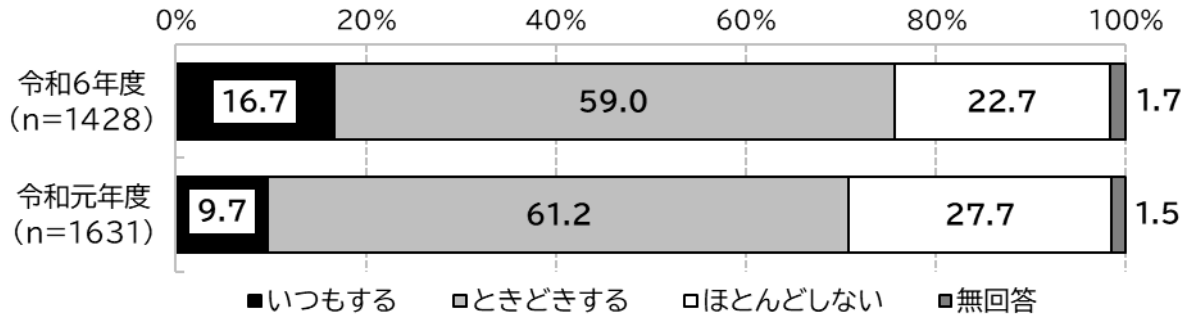
図表Ⅲ-3 自身の家事頻度【食事の後片付け】



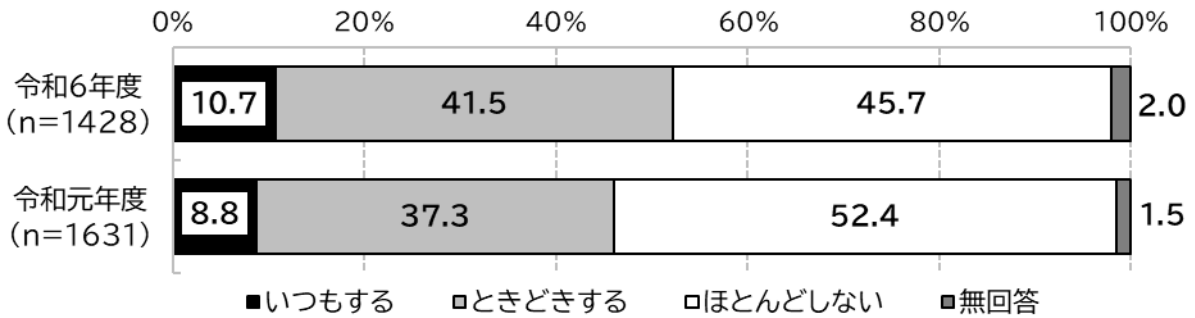
図表Ⅲ-4 自身の家事頻度【ゴミ出し】



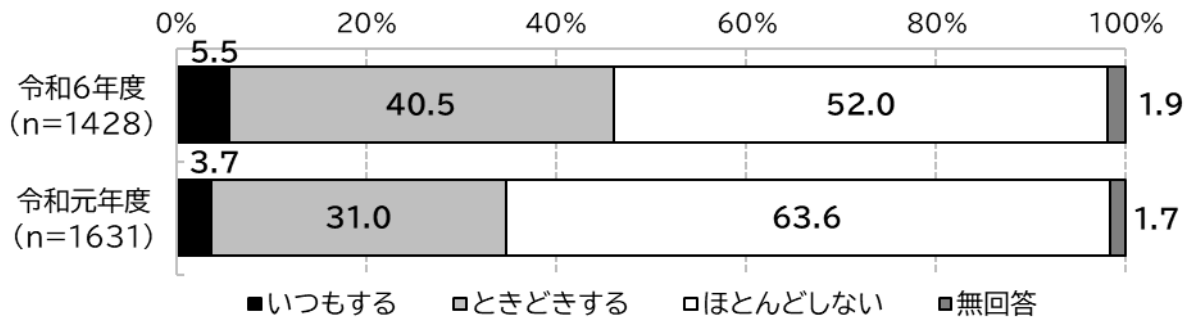
図表Ⅲ-5 自身の家事頻度【掃除】



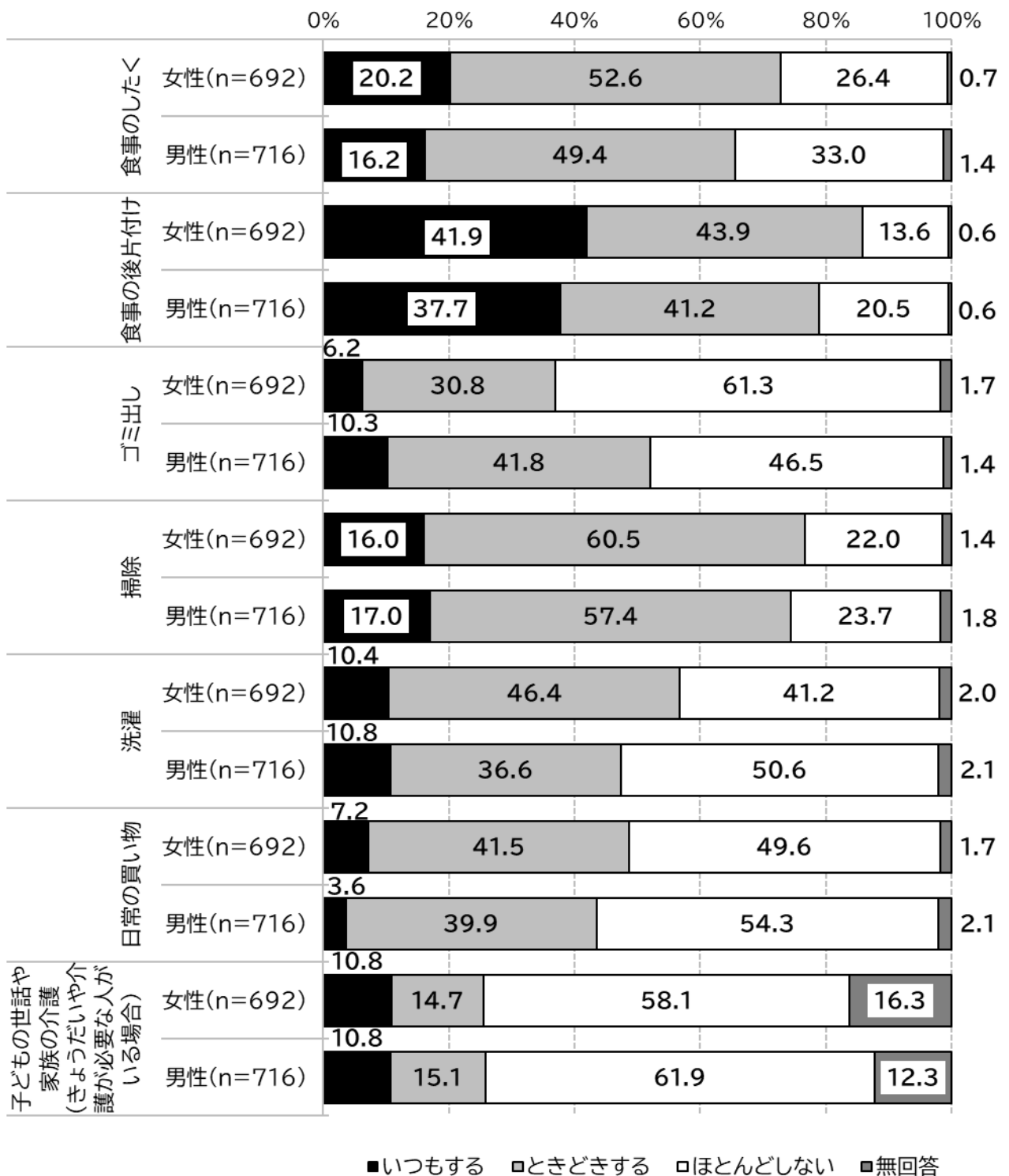
図表Ⅲ-6 自身の家事頻度【洗濯】



図表Ⅲ-7 自身の家事頻度【日常の買い物】



図表Ⅲ-8 自身の家事頻度(性別)



(2)家族内で家事を主に行う人

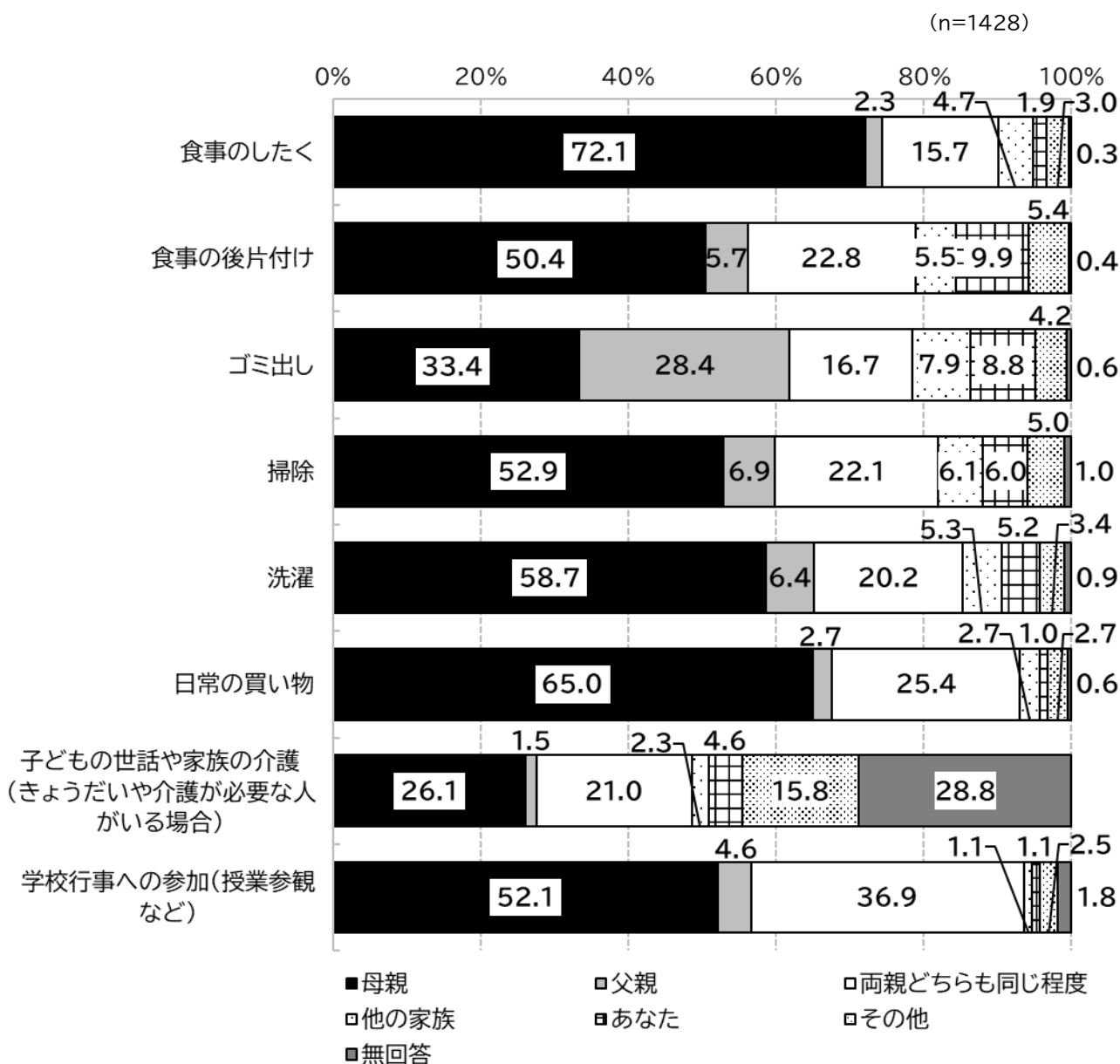
問10. 家族の中で以下の家の役割を主に誰が行っていますか。

家族内で家事を主に行う人を見ると、全項目で「母親」が最も高く、「食事のしたく」が72.1%、次いで「日常の買い物」が65.0%、「洗濯」が58.7%となっている。

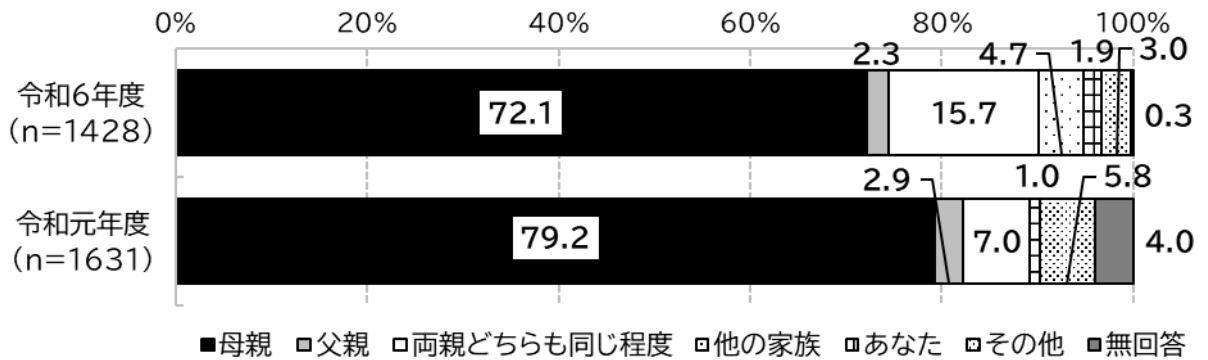
令和元年度調査と比較すると、家事項目においては「両親どちらも同じ程度」が10ポイント程度増加し、例えば、「食事の後片付け」で11.6ポイント増加、「日常の買い物」で12.5ポイント増加している。一方、「子どもの世話や家族の介護(きょうだいや介護が必要な人がいる場合)」では、「両親どちらも同じ程度」が11.9ポイント減少している。「学校行事への参加(授業参観など)」では、「両親どちらも同じ程度」が13.3ポイント増加している。

性別で比較すると、「ゴミ出し」では、男性のほうが女性よりも「あなた」が6.0ポイント高い。

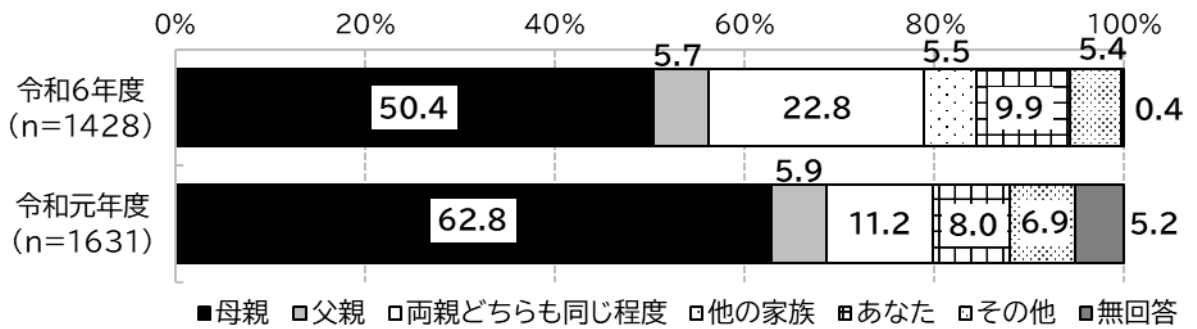
図表Ⅲ-9 家族内で家事を主に行う人



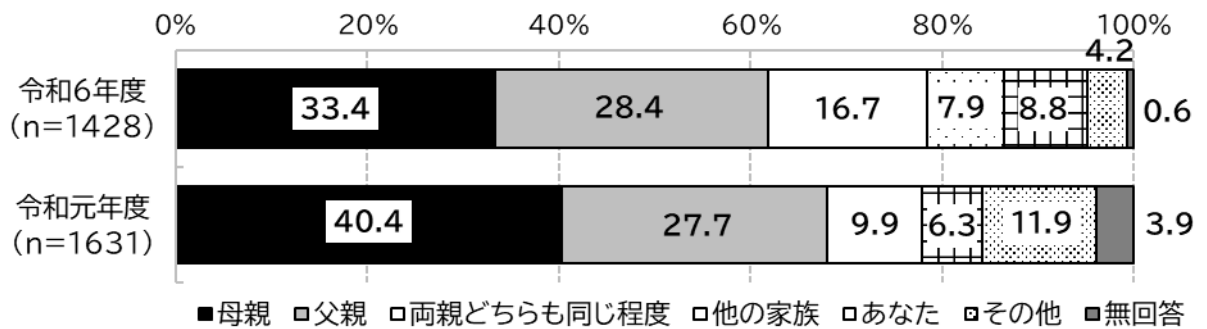
図表Ⅲ-10 家族内で家事を主に行う人【食事のしたく】



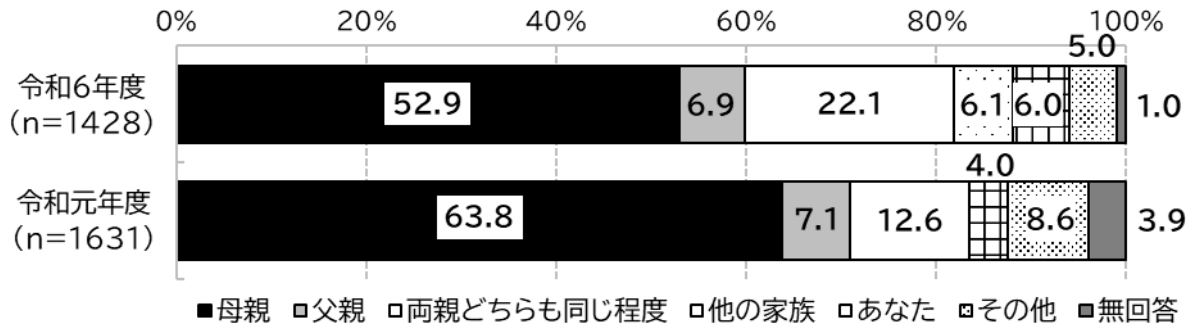
図表Ⅲ-11 家族内で家事を主に行う人【食事の後片付け】



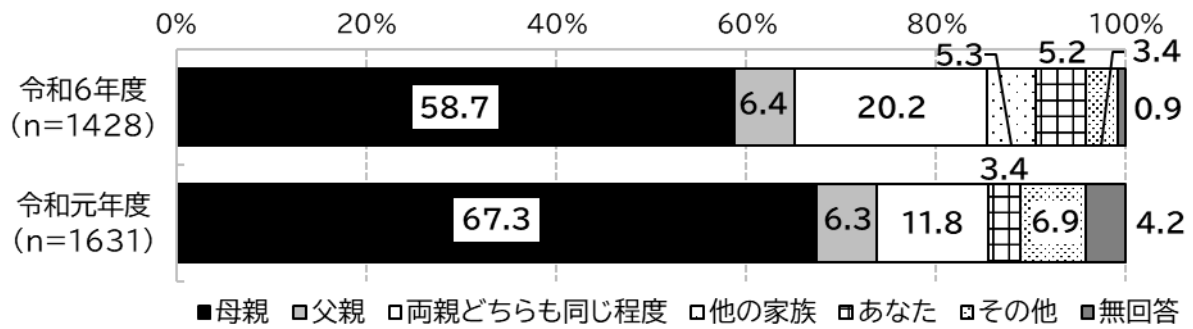
図表Ⅲ-12 家族内で家事を主に行う人【ゴミ出し】



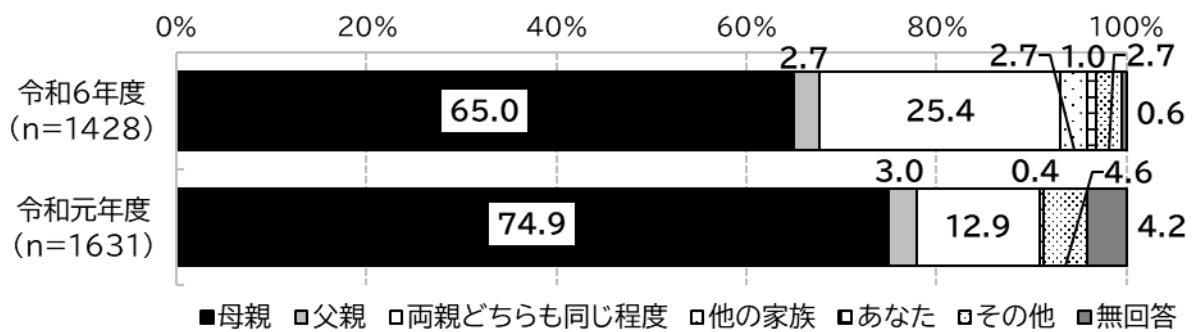
図表Ⅲ-13 家族内で家事を主に行う人【掃除】



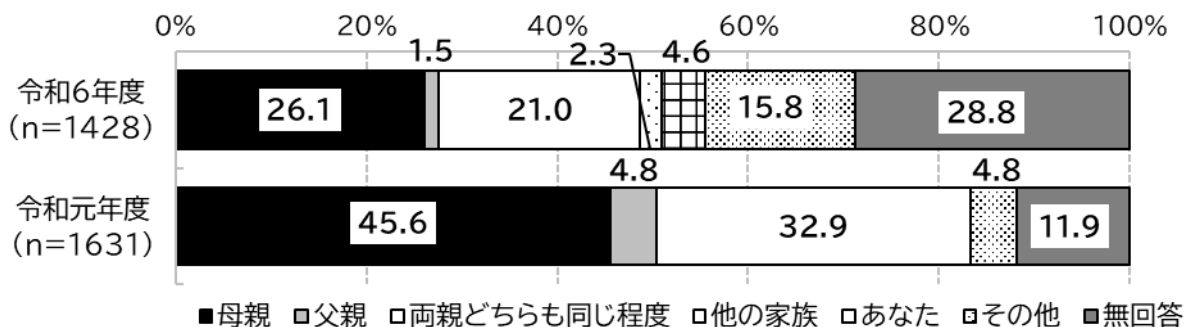
図表Ⅲ-14 家族内で家事を主に行う人【洗濯】



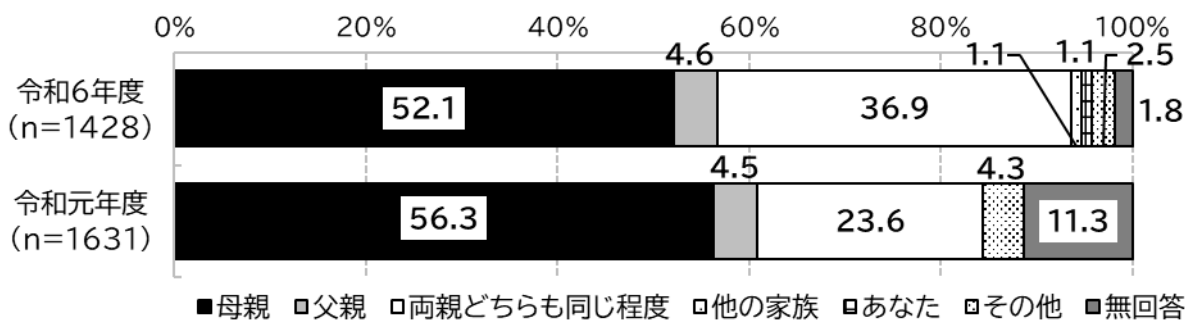
図表Ⅲ-15 家族内で家事を主に行う人【日常の買い物】



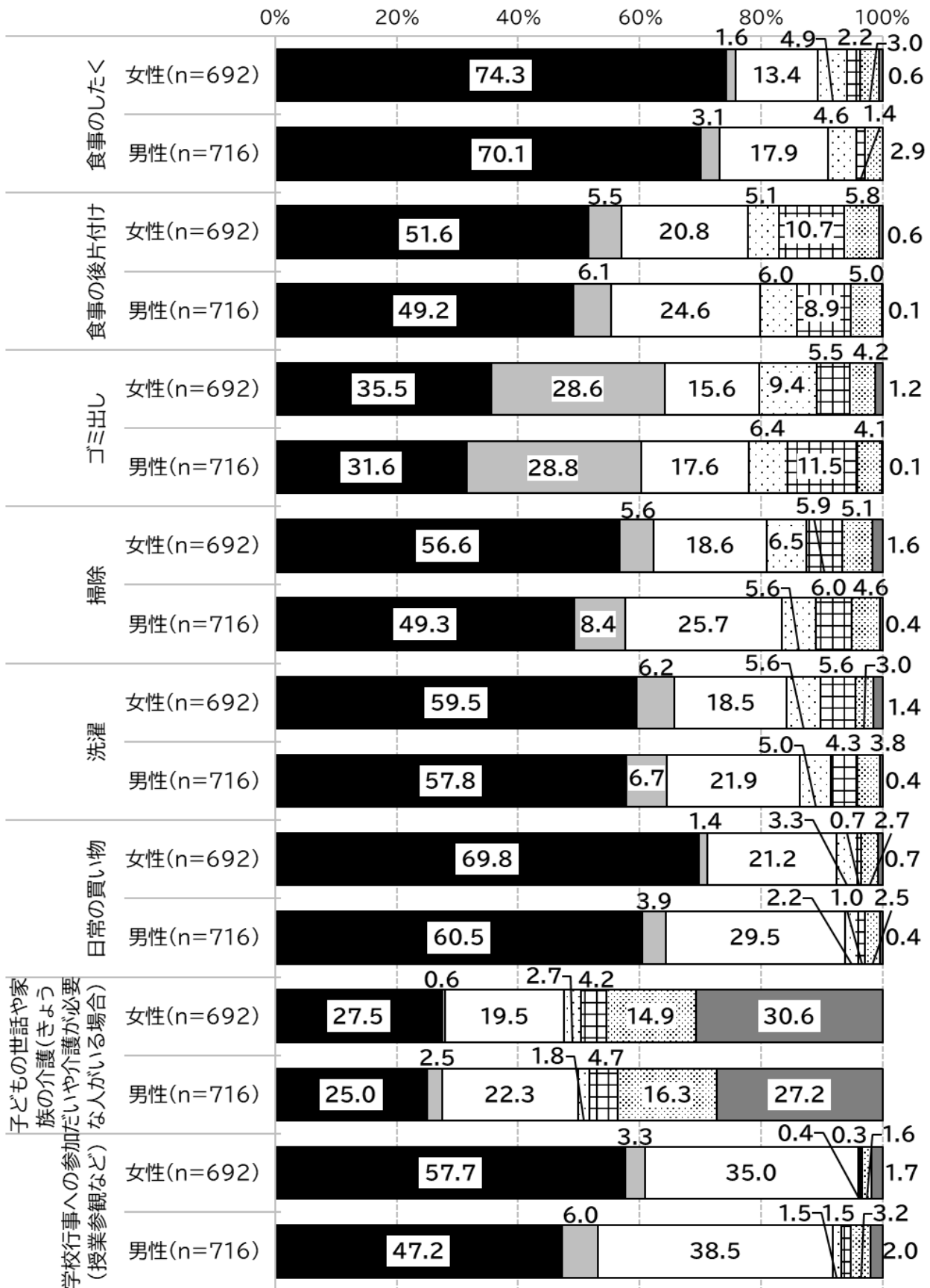
図表Ⅲ-16 家族内で家事を主に行う人【子どもの世話や家族の介護(きょうだいや介護が必要な人がいる場合)】



図表Ⅲ-17 家族内で家事を主に行う人【学校行事への参加(授業参観など)】



図表Ⅲ-18 家族内で家事を主に行う人(性別)



■母親 □父親 □両親どちらも同じ程度 □他の家族 □あなた □その他 ■無回答

2. 家庭内における男女の差別について

(1) 家庭生活の中で男女の差別を感じることの有無

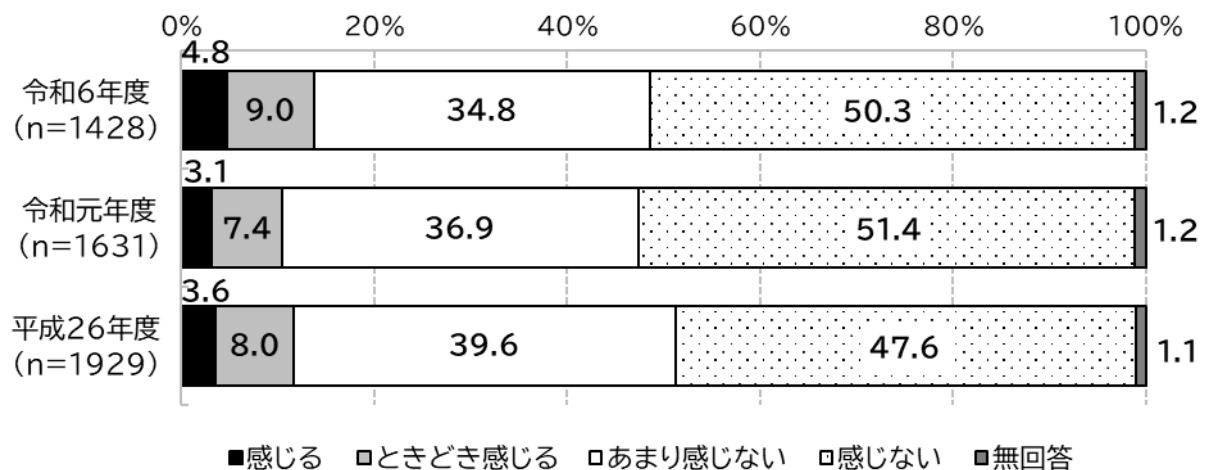
問 11. 家庭生活の中で、男女の差別を感じるがありますか。

家庭生活の中で男女の差別を感じることの有無をみると、『感じない』(「あまり感じない」「感じない」の合計)が 85.1%、『感じる』(「感じる」「ときどき感じる」の合計)が 13.8%となっている。

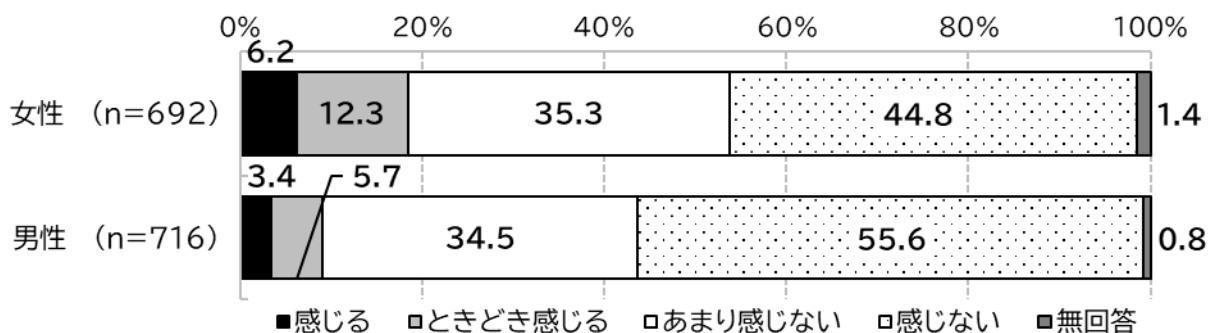
令和元年度調査と比較すると、有意な差はみられない。

性別で比較すると、男性のほうが女性よりも『感じない』が 10.0 ポイント高い。また、女性のほうが男性よりも『感じる』が 9.4 ポイント高い。

図表Ⅲ-19 家庭生活の中で男女の差別を感じることの有無



図表Ⅲ-20 家庭生活の中で男女の差別を感じることの有無(性別)



(2)家庭生活の中で男女の差別を感じる具体的内容

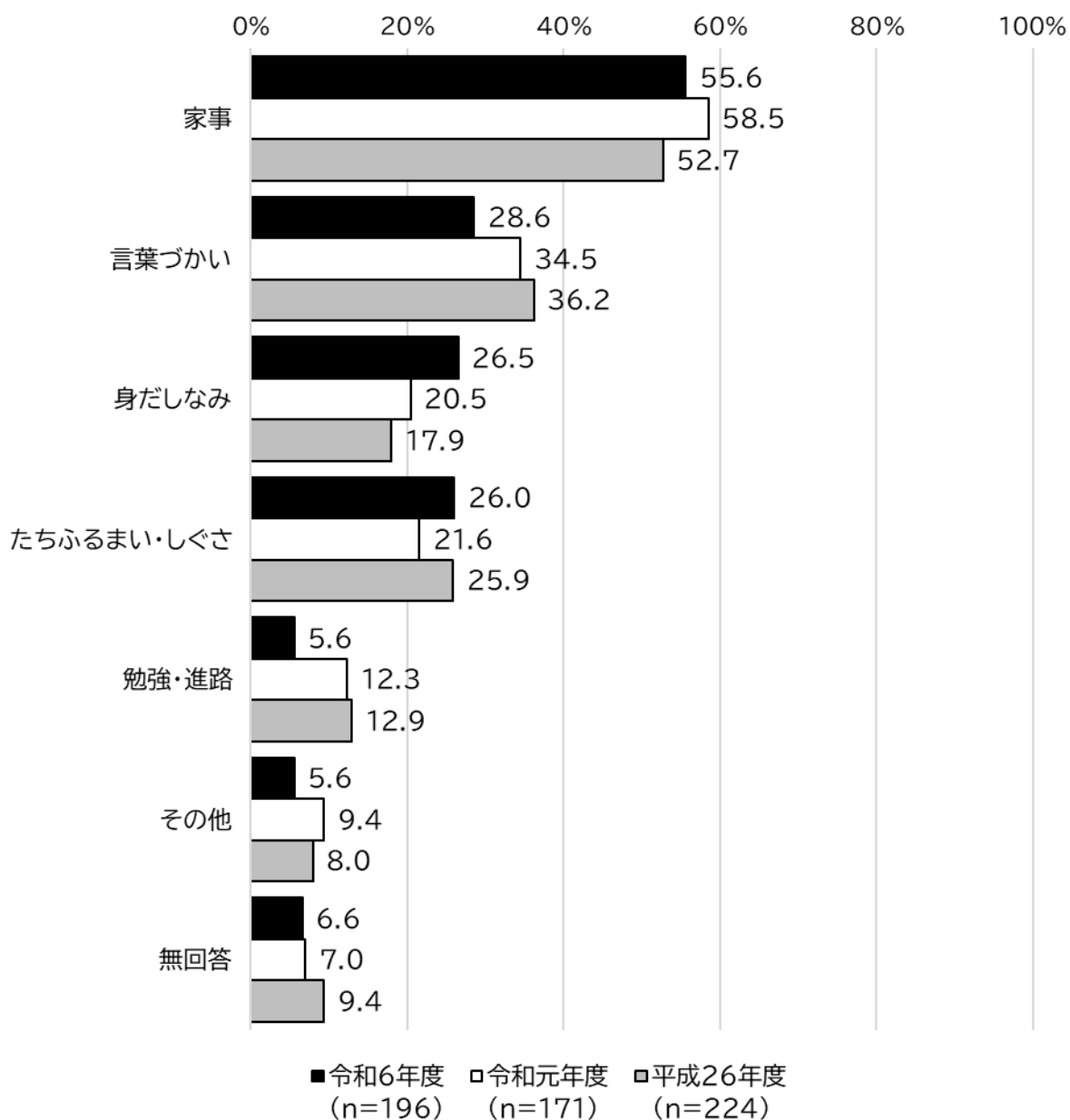
問 12. どんなことに男女の差別を感じますか。あてはまるものすべてお選びください。

家庭生活の中で男女の差別を感じる具体的内容をみると、「家事」が最も高く 55.6%、次いで「言葉づかい」が 28.6%、「身だしなみ」が 26.5%となっている。

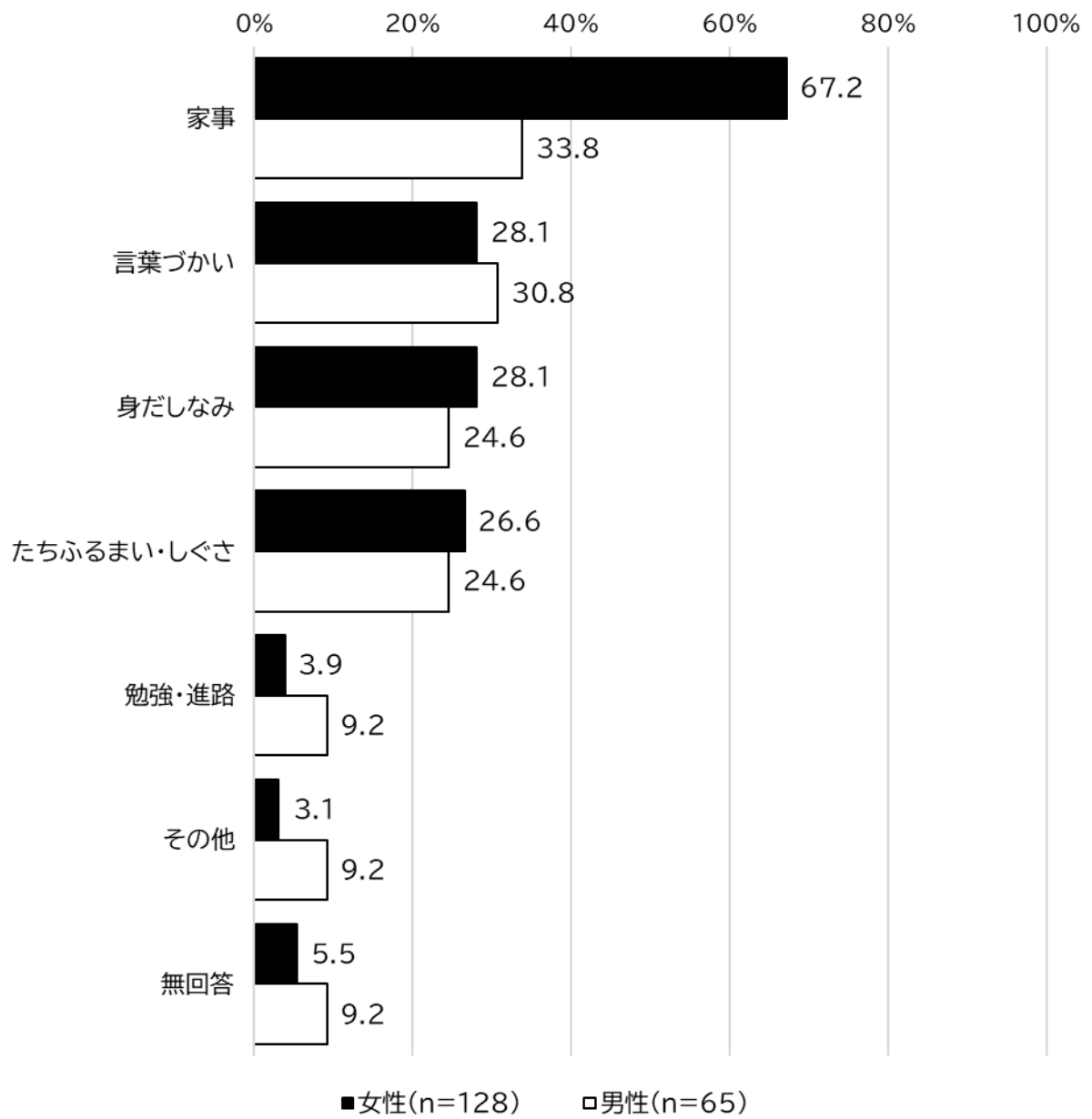
令和元年度調査と比較すると、「身だしなみ」が 6.0 ポイント増加、「言葉づかい」が 5.9 ポイント減少、「勉強・進路」が 6.7 ポイント減少している。

性別で比較すると、女性のほうが男性よりも「家事」が 33.4 ポイント高く、男性のほうが女性よりも「勉強・進路」が 5.3 ポイント高い。

図表Ⅲ-21 家庭生活の中で男女の差別を感じる具体的内容



図表Ⅲ-22 家庭生活の中で男女の差別を感じる具体的内容(性別)



(3)家庭生活の中で男女の差別を感じる具体的内容(自由記述)

問 13. (どんなことに男女の差別を感じますか)具体的な内容を教えてください。

図表Ⅲ-23 男女の差別を感じる具体的内容(一部抜粋)

	女性	男性
家事	<ul style="list-style-type: none"> ・母が仕事から帰宅してどれだけ疲れていても、父は手伝いをせず、ただ食事の準備を待っているだけ ・家事は女の仕事と言われたことがある ・自分が手伝わないといけない (合計 62 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの家事を母親がしている ・父親は家では全然動かない ・母親が家事のほとんどをしていて、父親が夜まで仕事をしている (合計 13 件)
言葉づかい	<ul style="list-style-type: none"> ・女の子らしい言葉使いをするように言われる ・男の人は言ってもいいことを女の子の人がいうと怒られる ・女だから言葉遣いに気をつけろと言われる (合計 19 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・姉には優しく自分には厳しい ・男ならもっと丁寧に話せと言われた ・言葉が荒くなるときがある (合計 12 件)
身だしなみ	<ul style="list-style-type: none"> ・髪の毛の長さ ・女は女の子らしい服を着ること ・女らしくかわいくしろと言われる (合計 22 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・スカートは女性だけというイメージがある ・女性だけが髪の毛を伸ばしている (合計 8 件)
たしふるまいしぐさ	<ul style="list-style-type: none"> ・女は足を閉じなさいと言われる ・男の人はだらしなくても何も言われないが、女の子がだらしなかつたら怒られる ・女らしくおとなしくしろと言われる (合計 18 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・男の子だからこんな感じにふるまいなさい (合計 7 件)
勉強・進路	<ul style="list-style-type: none"> ・女の子だから私立でもいいんじゃない ・女の子はこれをしてたほうがいい (合計 3 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・男ならもっといい学校に行きなさい (合計 3 件)

IV. 学校生活について

1. 学校生活における男女の差別について

(1) 学校生活の中で男女の差別を感じることの有無

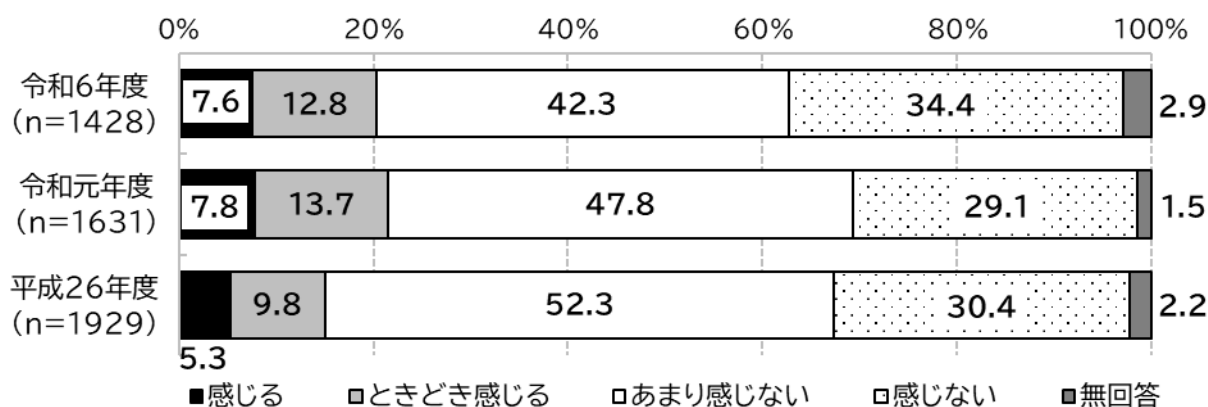
問 14. 学校生活の中で、男女の差別を感じるがありますか。

学校生活の中で男女の差別を感じることの有無をみると、『感じない』(「あまり感じない」「感じない」の合計)が76.7%、『感じる』(「感じる」「ときどき感じる」の合計)が20.4%となっている。

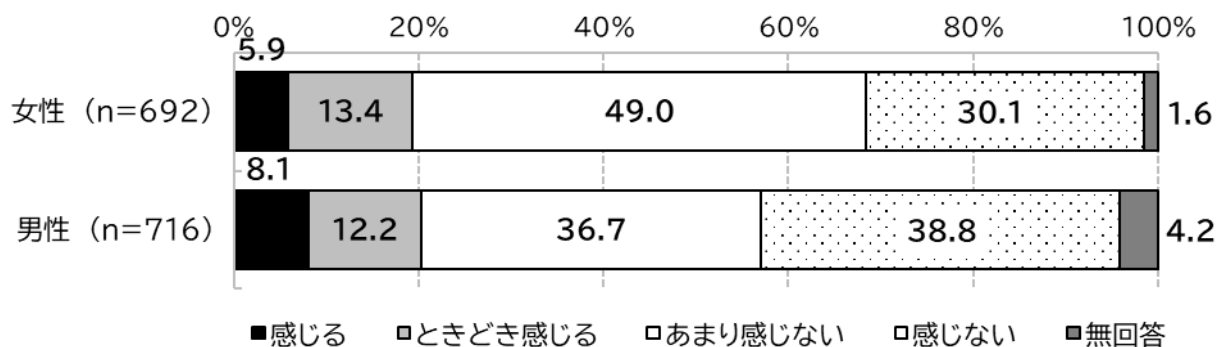
令和元年度調査と比較すると、有意な差はみられない。

性別で比較すると、男女で有意な差はみられない。

図表IV-1 学校生活の中で男女の差別を感じることの有無



図表IV-2 学校生活の中で男女の差別を感じることの有無(性別)



(2) 学校生活の中で男女の差別を感じる具体的内容

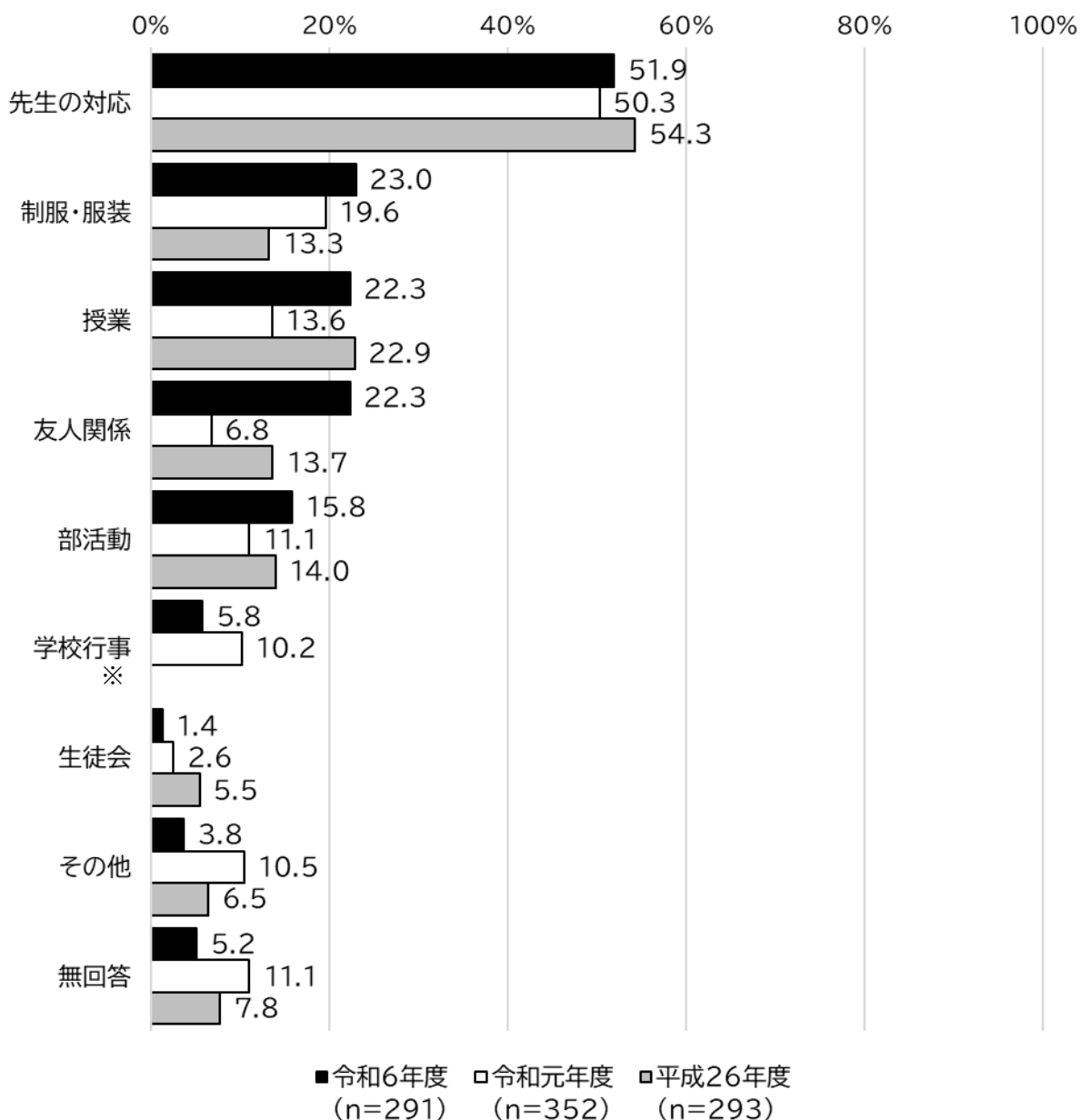
問 15. どんなことに男女の差別を感じますか。

学校生活の中で男女の差別を感じる具体的内容をみると、「先生の対応」が最も高く 51.9%、次いで「制服・服装」が 23.0%、「授業」「友人関係」が 22.3%となっている。

令和元年度調査と比較すると、「友人関係」が 15.5 ポイント、「授業」が 8.7ポイント増加している。

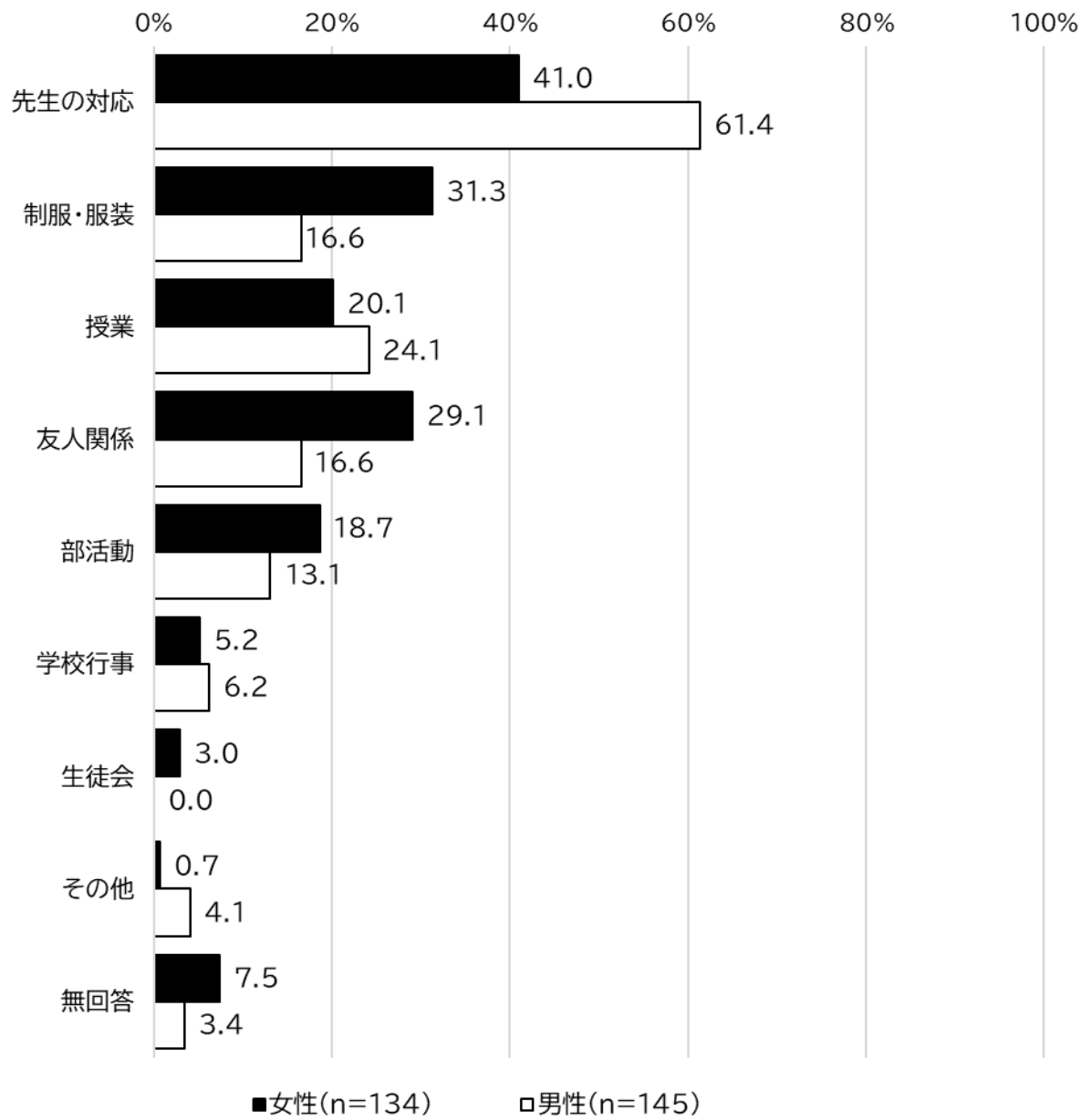
性別で比較すると、男性のほうが女性よりも「先生の対応」が 20.4 ポイント高い。女性のほうが男性よりも「友人関係」が 12.5 ポイント、「部活動」が 5.6 ポイント、「制服・服装」が 14.7 ポイント高い。

図表IV-3 学校生活の中で男女の差別を感じる具体的内容



※「学校行事」は令和元年度調査から新設

図表IV-4 学校生活の中で男女の差別を感じる具体的内容(性別)



(3)学校生活の中で男女の差別を感じる具体的内容(自由記述)

問 16. (どんなことに男女の差別を感じますか)具体的な内容を教えてください。

図表IV-5 男女の差別を感じる具体的内容(一部抜粋)

	女性	男性
先生の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男子には厳しくて女子には優しい ・ 男女で態度が違う <p>(合計 36 件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男子には厳しく、女子には優しくする ・ 男女どちらとも悪いことをしていたら男子の方を怒る ・ 頼まれる仕事が男子・女子で違う <p>(合計 54 件)</p>
制服・服装	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女の制服が男子はズボン、女子はスカートで選べるが、男子はスカートは履けないような雰囲気になっている <p>(合計 23 件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スカートを男子が履くのは恥ずかしいと思う ・ 女子と男子で髪型の校則の違いがある <p>(合計 13 件)</p>
授業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健体育の時に男子と女子にわかれる ・ 女子にだけ優しい ・ 男子に甘い <p>(合計 16 件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体操服に着替えるとき男子は先生やほかの生徒から見えるところで着替えなければいけない ・ 体育のときに走る量が違う ・ 男性の先生は女子に優しい <p>(合計 18 件)</p>
友人関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女子と男子がぶつっただけでひやかされる ・ あまり異性と話すことがない ・ 男子、女子で別れて遊ぶことが多い <p>(合計 21 件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同性同士で会話したり遊んだりすること ・ 言葉遣い ・ 学校生活での過ごし方 <p>(合計 15 件)</p>
部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男子、女子で部活動がわけられること ・ 文化部に男子が入りにくい雰囲気がある <p>(合計 13 件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男子だから女子だからと言って練習時間などが違う ・ 吹奏楽部や合唱部は女子が多く、サッカーや野球は男子が多い ・ 女子にはしっかり教えるのに、男子には全然教えてくれないことがある <p>(合計 11 件)</p>
学校行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男子がリーダーなどの大事な役割をよくする ・ 体育祭などで男女別の競技がある <p>(合計 5 件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男女でやることがわかれている <p>(合計 4 件)</p>
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会長はだいたい男子 ・ 女子が生徒会長になることが少ない <p>(合計 3 件)</p>	

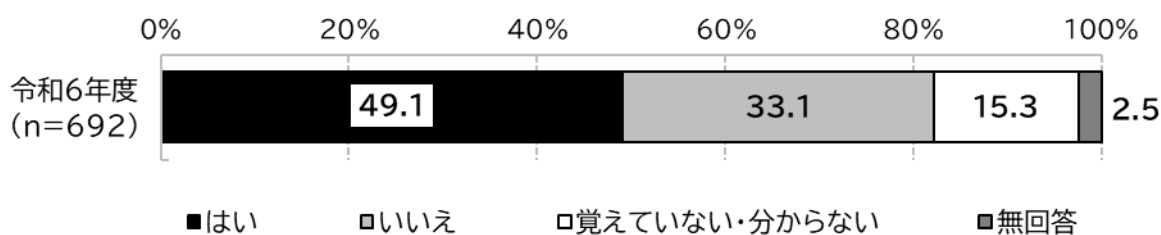
2. 生理に関する実態

(1) 生理によって休みたいと思ったことの有無

問 17. 生理によって学校・授業・部活・体育等を休みたいと思ったことがありますか。

生理によって休みたいと思ったことの有無をみると、「はい」が最も高く 49.1%、次いで「いいえ」が 33.1% となっている。

図表IV-6 生理によって休みたいと思ったことの有無

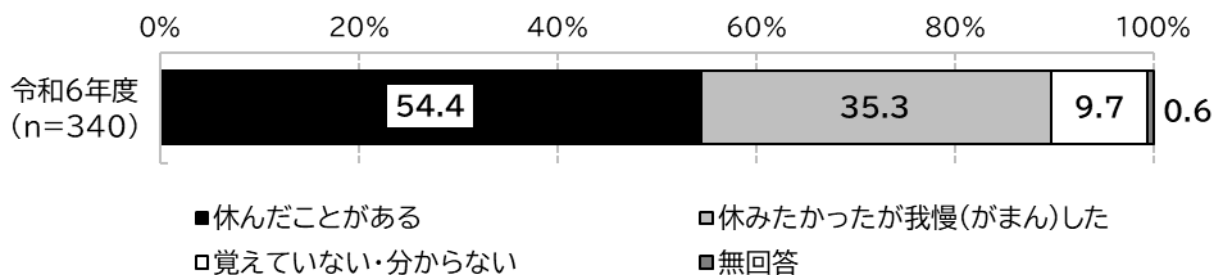


(2) 生理によって休んだことの有無

問 18. 生理によって実際に休んだことはありますか。

生理によって休んだことの有無をみると、「休んだことがある」が最も高く 54.4%、次いで「休みたかったが我慢(がまん)した」が 35.3% となっている。

図表IV-7 生理によって休んだことの有無

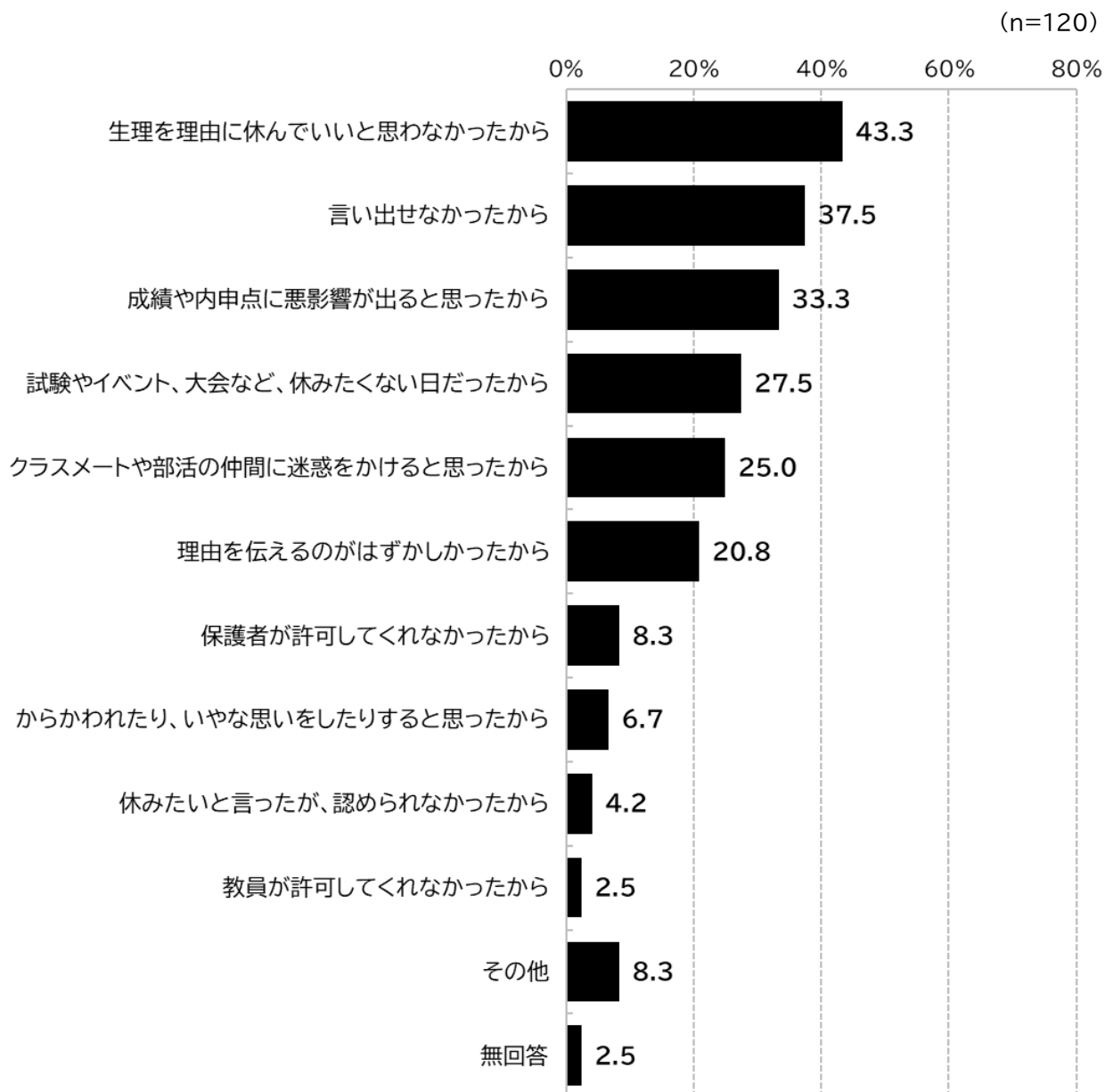


(3)生理による休みを我慢した理由

問 19. 我慢した理由は何ですか。

生理による休みを我慢した理由をみると、「生理を理由に休んでいいと思わなかったから」が最も高く43.3%、次いで「言い出せなかったから」が37.5%、「成績や内申点に悪影響(あくえいきょう)が出ると思ったから」が33.3%となっている。

図表IV-8 生理による休みを我慢した理由



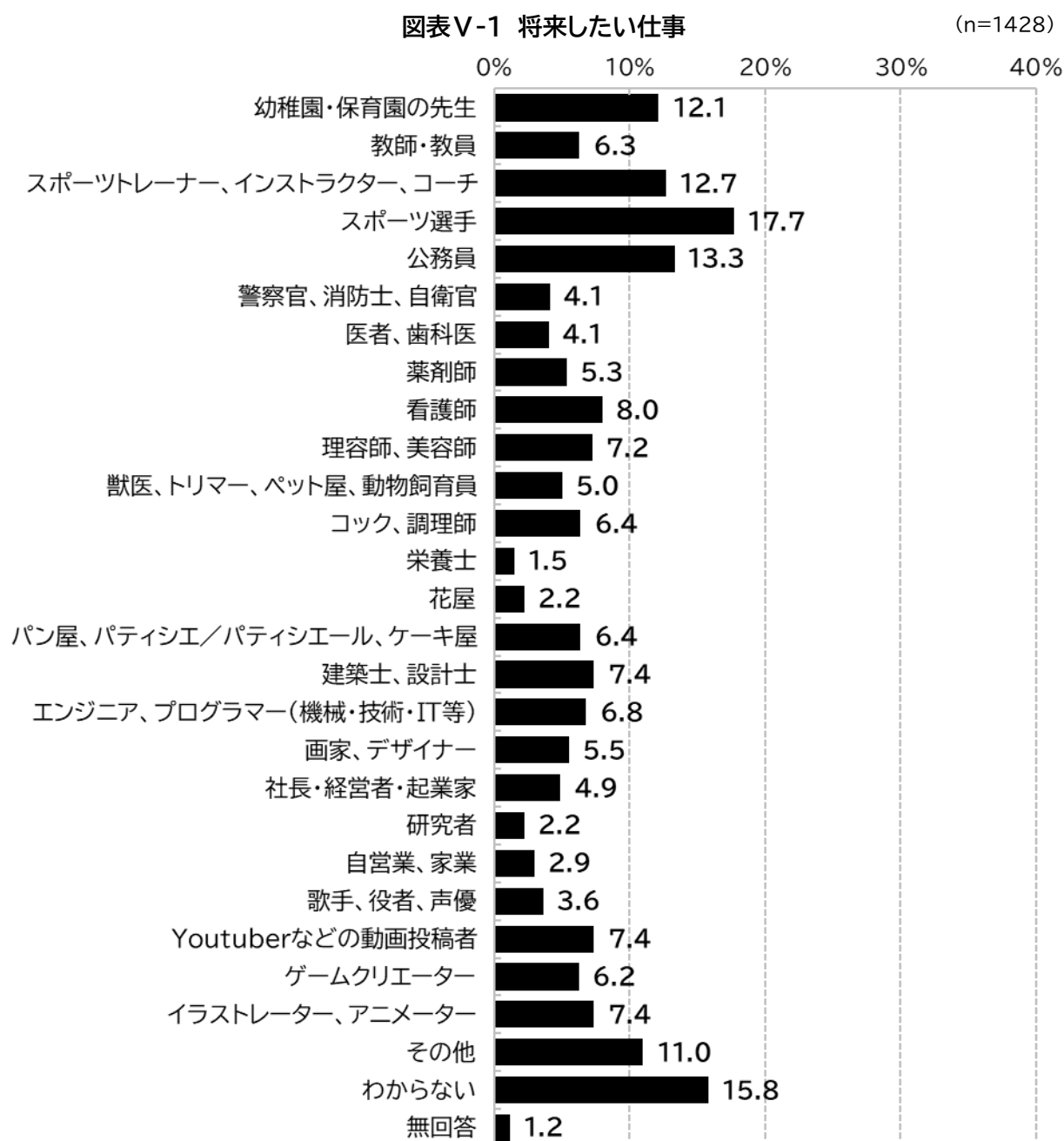
V. 将来について

1. 将来したい仕事

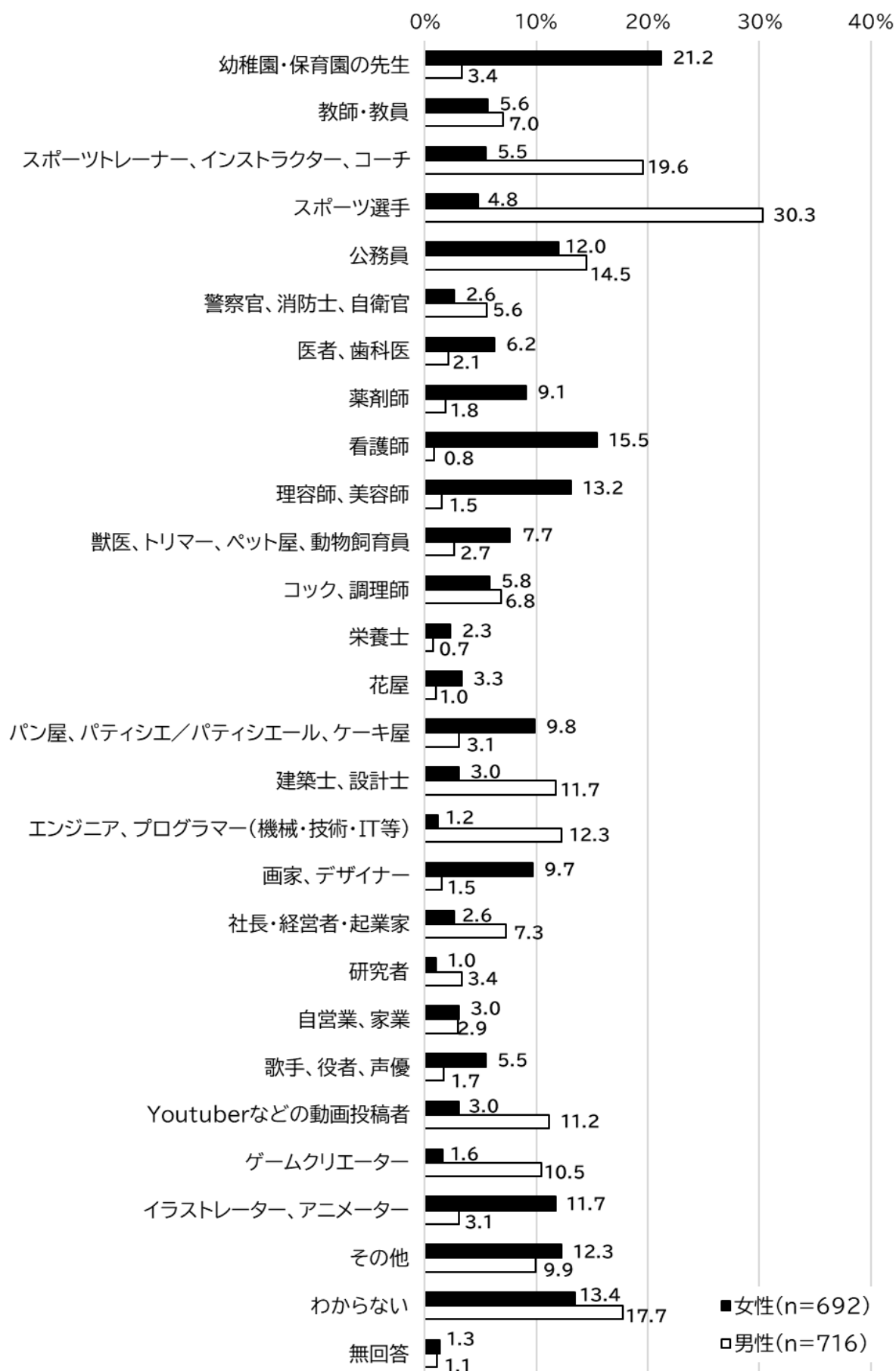
問 20. あなたは将来どのような仕事をしたいですか。

将来したい仕事をみると、「スポーツ選手」が最も高く17.7%、「公務員」が13.3%となっている。

性別で比較すると、女性は「幼稚園・保育園の先生」が最も高く21.2%、次いで「看護師」が15.5%、「理容師、美容師」が13.2%となっている。男性は「スポーツ選手」が最も高く30.3%、次いで「スポーツトレーナー、インストラクター、コーチ」が19.6%、「公務員」が14.5%となっている。



図表V-2 将来したい仕事(性別)



2. 将来したい仕事を実現する上での性別の影響度

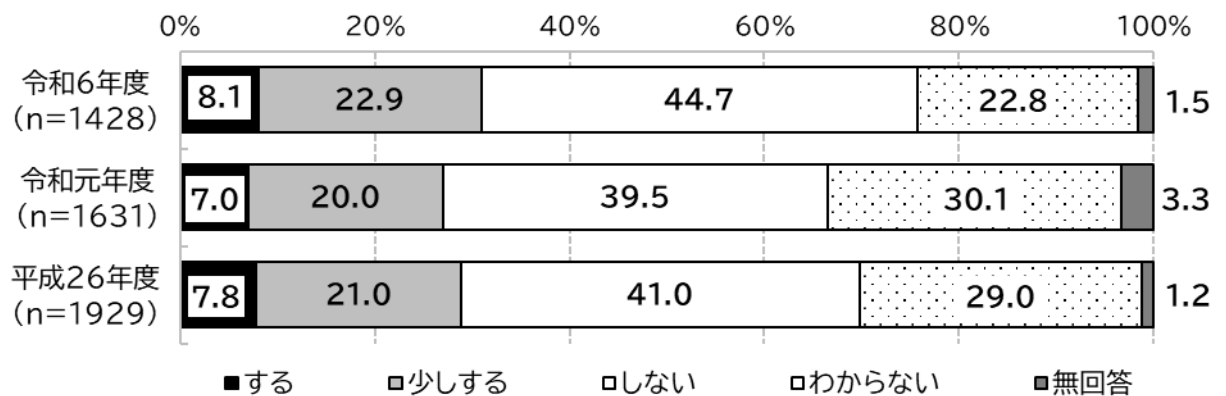
問 21. 将来したい仕事を実現する上で、女であること、もしくは、男であることが影響すると思いますか。

将来したい仕事を実現するうえでの性別の影響度をみると、「しない」が最も高く44.7%、次いで『影響する』（「する」「少しする」の合計）が31.0%となっている。

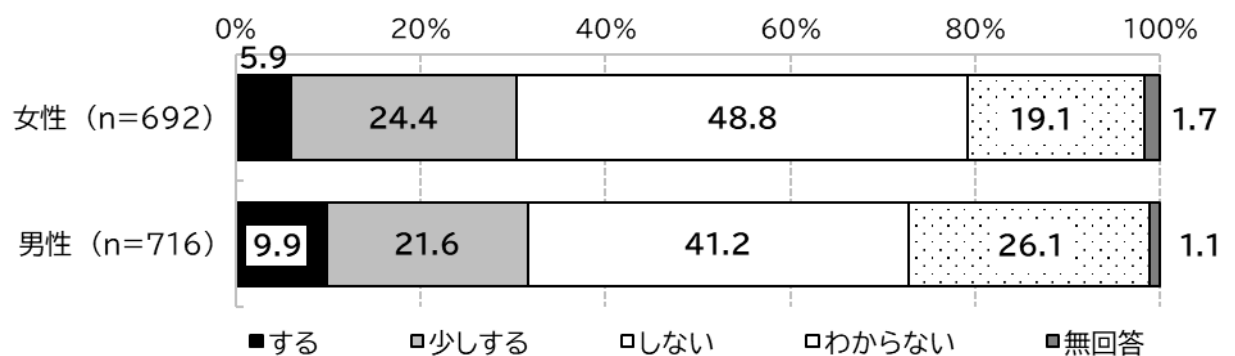
令和元年度調査と比較すると、『影響する』が4.0ポイント、「しない」が5.2ポイント増加している。

性別で比較すると、女性のほうが男性よりも「しない」が7.6ポイント高い。

図表V-3 将来したい仕事を実現する上での性別の影響度



図表V-4 将来したい仕事を実現する上での性別の影響度(性別)



VI. DV(ドメスティック・バイオレンス)について

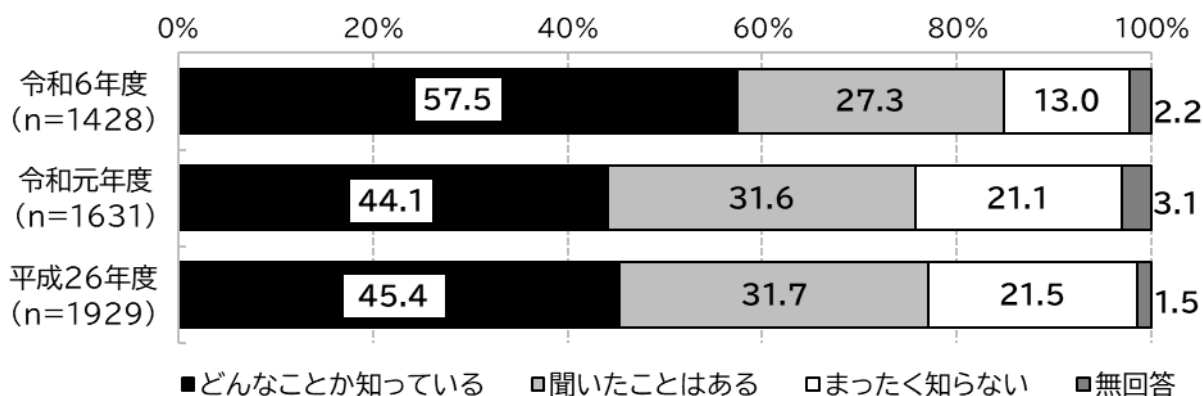
1. DVの認知度

問 22. 「DV」を知っていますか。

「DV」の『認知度』(「どんなことが知っている」「聞いたことはある」の合計)は 84.8%、「まったく知らない」は 13.0%となっている。

令和元年度調査と比較すると、『認知度』は 9.1 ポイント増加している。

図表VI-1 DVの認知度



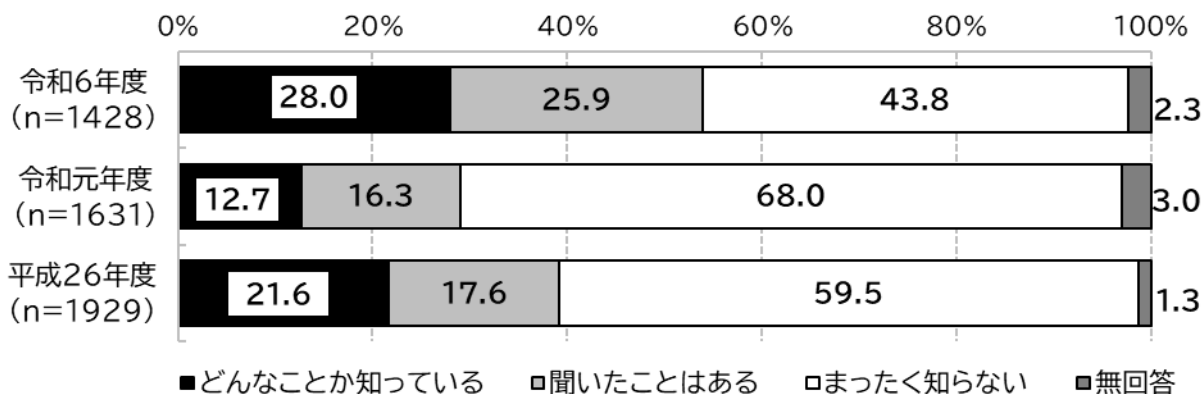
2. デートDVの認知度

問 23. 「デートDV」を知っていますか。

「デートDV」の『認知度』(「どんなことが知っている」「聞いたことはある」の合計)は 53.9%、「まったく知らない」は 43.8%となっている。

令和元年度調査と比較すると、『認知度』は 24.9 ポイント増加している。

図表VI-2 デートDVの認知度



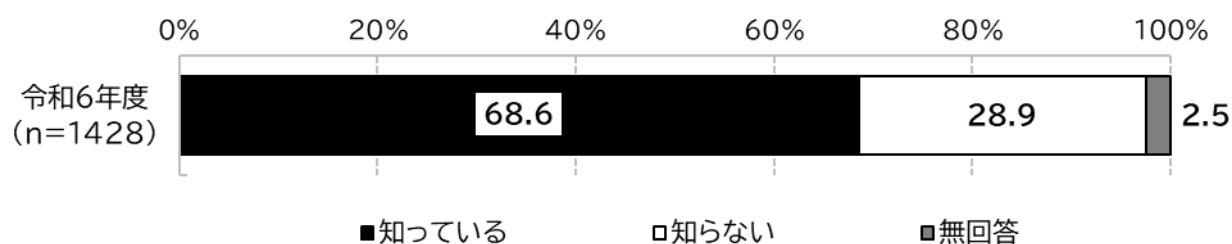
Ⅶ. その他

1. 相談できる場所があるか

問24. 困ったときや悩んだときに、相談できる場所を知っていますか。

相談できる場所があるかをみると、「知っている」が68.6%、「知らない」が28.9%となっている。

図表Ⅶ-1 相談できる場所があるか

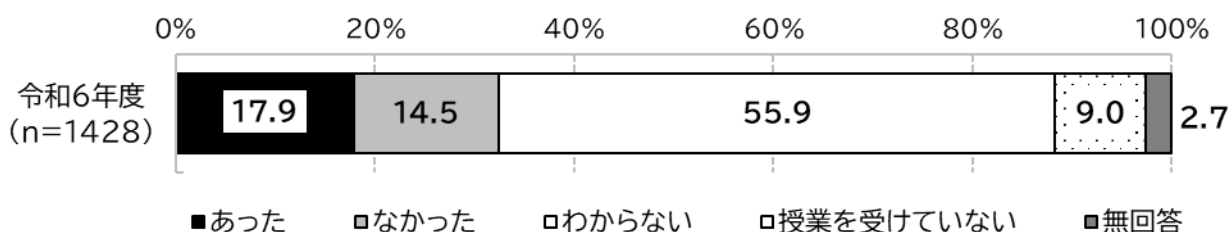


2. 男女共同参画の授業を受けた後の変化

問25. 1年生の時に男女共同参画の授業を受けた後、あなた自身の考え方や行動に何か変化はありましたか。

男女共同参画の授業を受けた後の変化をみると、「わからない」が最も高く 55.9%、次いで「あった」が17.9%、「なかった」が14.5%となっている。

図表Ⅶ-2 男女共同参画の授業を受けた後の変化



3.自由意見

問 26. ジェンダー平等や男女共同参画に対する意見などがありましたら自由に記入してください。

- ・ 1人ひとりが意識することが大切だと思う
- ・ LGBT や同性愛に対する偏見がなくなったらいいと思う
- ・ これから先、男女平等な日本であってほしい
- ・ ジェンダー平等は、私が生きている間には叶わないと思う
- ・ どんな人でももう少しジェンダー平等や男女共同参画に対する意識をもったほうがいいと思う
- ・ もっといろんな人が自分自身のことで悩まないような世界になってほしい。もっと周りも偏見などを持ってはいけないという空気を出してほしいと思う
- ・ 家庭内での家事をする割合を平等にしてほしい
- ・ 皆が差別を受けない世の中になっていったらいいと思う
- ・ インターネットでのルールを厳しくしたり、男女共同参画の授業を子どもだけでなく、大人も聞けるようにしたほうがいい
- ・ 国や県、市町村が大きく行動しないと何も変わらない
- ・ 差別と区別の意味の違いをちゃんと理解する必要があると思う
- ・ 最近では以前よりも男女差別がなくなってきているため、いつかみんなが理解しあえる世の中になればいいと思う
- ・ 自分のしたいことができるような環境づくりをみんなでしていくことが大切だと思う
- ・ 女の子だからとか男の子だからとかで決めつけてはいけないと思う
- ・ 親がジェンダー平等ができていないから、子どももできないのではないかな
- ・ 人が存在する限り、みんなが平等に扱われるのは無理だと思う
- ・ 性別によって仕事に就くときに不利になったりすることは今後なくしたほうがいいと思う
- ・ 性別によって責任や権利が変わるのはよくないが、男は男、女は女という区別はあったほうがいいと思う
- ・ 男性同士、女性同士で付き合うことを認めない人もいると思うけれど、女性だから・男性だからという意見は言わないほうがいいと思う。一人ひとりを大事にすると日本は笑顔になると思う
- ・ 先生に学んでほしい
- ・ 先生たちが差別しないようにする必要があると思う
- ・ 誰にでも同じ対応をしてほしい
- ・ 男は男らしく、女は女らしく、でいいと思う
- ・ 学校の授業でも日常生活でも、男女平等をめざしているとは思えないと感じる

※一部抜粋

第 4 章 調査票

男女共同参画に関する 中学2年生意識調査

佐賀市では、性別にかかわらず活躍できる社会をつくるための取組みを進めています。このアンケートは、男女平等(だんじょびょうどう)や男女共同参画(だんじょきょうごうざんか)に関するみなさんの考えをお聞きするものであり、その結果については、今後の取組みの資料とさせていただきます。ご回答へのご協力を、どうぞよろしく願います。

※男女共同参画とは…男女がお互いの人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できること。

佐賀市長 坂井 英隆

【ご回答にあたってのお願い】

1. アンケートは、調査対象の ご本人が 記入してください。
2. 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる番号を選択してください。
3. 回答はすべて任意です。答えられる質問にお答え下さい。
4. 回答内容はすべて統計(とうけい)処理し、調査以外の目的に使用することはありません。また、お名前を記入いただく必要もなく、誰が答えたかは分かりません。
5. アンケートについては、不明な点やご質問がありましたら、お問い合わせください。

【 問い合わせ 】

佐賀市 政策推進部 男女共同参画課
TEL 40-7014 / FAX 29-2095
Eメール danjo@city.saga.lg.jp

あなたのことについておたずねします

Q1. あなたの性別を教えてください。

女性	男性	その他	わからない
1	2	3()	4

Q2. あなたと同居している家族は誰ですか。あてはまるものすべてお選びください。

母親	1
父親	2
兄弟姉妹	3
祖父母	4
その他	5

Q3. 「女/男だから…しなさい(するな)」と言われたことがありますか。

ある	ない
1	2

★次の質問は、Q3で【1.ある】を選んだ人へのみ設定。

Q4. そう言われた時、どう思いましたか。

いやだなと思った	仕方がないと思った	そのとおりだと思った	何も感じなかった
1	2	3	4

★次の質問は、Q3で【1.ある】を選んだ人へのみ設定。
 Q5. 誰から言われましたか。あてはまるものすべてお選びください。

母親	1
父親	2
兄弟姉妹	3
祖母	4
祖父	5
先生	6
友人	7
その他 ()	8

★次の質問は、Q5で選んだ選択肢について表示。
 Q6. 言われた言葉を具体的に教えてください。

母親	言われた言葉()
父親	言われた言葉()
兄弟姉妹	言われた言葉()
祖母	言われた言葉()
祖父	言われた言葉()
先生	言われた言葉()
友人	言われた言葉()
その他	言われた言葉()

Q7. 次の考えについてどう思いますか。

項目	選択肢	そう思う	どちらか といえ そう思う	どちらか といえ そう 思わない	どちらか といえ そう 思わない	どちらと もいえ ない
「女は女らしく、男は男らしくしたほうがよい」	選択肢	1	2	3	4	5
「女性は家庭で家の仕事を行い子どもを育て、男性は外で仕事をして収入を得るのがよい」		1	2	3	4	5

Q8. 幼い頃に「男らしい」「女らしい」のイメージをもつきっかけになったものがありますか。あてはまるものを【3 つまで】お選びください。

服	1
おもちゃ	2
絵本やマンガ、アニメ等	3
幼稚園や保育園での生活	4
友達との遊び	5
習い事	6
親や家族の発言や態度	7
先生など身近な大人の発言や態度	8
その他()	9

家庭のことについておたずねします

Q9. あなたは、以下の家の役割をどのくらい行っていますか。

項目	選択肢	いつもする	ときどきする	ほとんどしない
食事のしたく		1	2	3
食事の後片付け		1	2	3
ゴミ出し		1	2	3
掃除		1	2	3
洗濯		1	2	3
日常の買い物		1	2	3
子どもの世話や家族の介護(かいご) (さようだいや介護が必要な人がいる場合)		1	2	3

Q10. 家族の中で以下の家の役割を主に誰が行っていますか。

項目	選択肢	母親	父親	両親どちらも同じ程度	他の家族	あなた	その他
食事のしたく		1	2	3	4	5	6
食事の後片付け		1	2	3	4	5	6
ゴミ出し		1	2	3	4	5	6
掃除		1	2	3	4	5	6
洗濯		1	2	3	4	5	6
日常の買い物		1	2	3	4	5	6
子どもの世話や家族の介護(かいご) (さようだいや介護が必要な人がいる場合)		1	2	3	4	5	6
学校行事への参加(授業参観など)		1	2	3	4	5	6

Q11. 家庭生活の中で、男女の差別を感じることはありませんか。

感じる	ときどき感じる	あまり感じない	感じない
1	2	3	4

★次の質問は、Q11で「1.感じる」「2.ときどき感じる」を選んだ人へのみ設定。

Q12. どんなことに男女の差別を感じますか。あてはまるものすべてお選びください。

家事	1
身だしなみ	2
言葉づかい	3
たちふるまい・しぐさ	4
勉強・進路	5
その他()	6

★次の質問は、Q12で選んだ選択肢について表示。

Q13. 上記の具体的な内容を教えてください。

家事	具体的な内容()
身だしなみ	具体的な内容()
言葉づかい	具体的な内容()
たちふるまい・しぐさ	具体的な内容()
勉強・進路	具体的な内容()
その他	具体的な内容()

学校生活のことについておたずねします

Q14. 学校生活の中で、男女の差別を感じることはありませんか。

感じる	ときどき感じる	あまり感じない	感じない
1	2	3	4

★次の質問は、Q14で【1.感じる】2.ときどき感じる】を選んだ人へのみ設定。

Q15. どちらの性別に男女の差別を感じますか。具体的な内容も教えてください。

授業	1
生徒会	2
先生への対応	3
友人関係	4
部活動	5
学校行事	6
制服・服装	7
その他()	8

★次の質問は、Q15で選んだ選択肢について表示。

Q16. 上記の具体的な内容を教えてください。

授業	具体的な内容()
生徒会	具体的な内容()
先生への対応	具体的な内容()
友人関係	具体的な内容()
部活動	具体的な内容()
学校行事	具体的な内容()
制服・服装	具体的な内容()
その他	具体的な内容()

★次の質問は、Q1で【1.女性】を選んだ人へのみ設定

Q17. 生理によって学校・授業・部活・体育等を休みたいと思っただけですか？

はい	いいえ	覚えていない・分からない
1	2	3

★次の質問は、Q17で【1.はい】を選んだ人へのみ設定

Q18. 生理によって実際に休んだことはありますか？

休んだことがある	休みたかったが 我慢(がまん)した	覚えていない・分からない
1	2	3

★次の質問は、Q18で【2.休みたかったが我慢(がまん)した】を選んだ人へのみ設定

Q19. 我慢(がまん)した理由は何ですか。その理由としてあてはまるものすべてをお選びください。

言い出せなかったから	1
理由を伝えるのが、ずかしかったから	2
からかわれたり、いやな思いをしたりすると思ったから	3
クラスメートや部活の仲間に迷惑(めいわく)をかけると思ったから	4
試験やイベント、大会など、休みたくない日だったから	5
成績や内申点に悪影響(あくえいきょう)が出ると思ったから	6
教員が許可してくれなかったから	7
保護者が許可してくれなかったから	8
休みたいと言ったが、認められなかったから	9
生理を理由に休んでいいと思わなかったから	10
その他()	11

将来についておたずねします

Q20. あなたは将来どのような仕事をしたいですか。あてはまるものを【3 つまで】お選びください。

幼稚園・保育園(ようちえん・ほいくえん)の先生	1	教師・教員(きょうし・きょういん)	2
スポーツトレーナー、インストラクター、コーチ	3	スポーツ選手(せんしゅ)	4
公務員(こうむいん)	5	警察官(けいさつかん)、消防士(しょうぼうし)、自衛官(じえいかん)	6
医者(いしや)、歯科医(しかい)	7	薬剤師(やくざいし)	8
看護師(かんごし)	9	理容師(りようし)、美容師(びようし)	10
獣医(じゅうい)、トリマー、ペット屋、動物飼育員(どうぶつしいきいん)	11	コック、調理師(ちようりし)	12
栄養士(えいようし)	13	花屋(はなや)	14
パン屋、パティシエ/パティシエール、ケーキ屋	15	建築士(けんちくし)、設計士(せつけいし)	16
エンジニア、プログラマー(機械・技術・IT等)	17	画家(がか)、デザイナー	18
社長・経営者(けいえいしや)、起業家(きぎょうか)	19	研究者(けんきゆうしや)	20
自営業(じえいぎょう)、家業(かぎょう)	21	歌手(かしゅ)、役者(やくしや)、声優(せいゆう)	22
Youtuberなどの動画投稿者(どうがとうこうしや)	23	ゲームクリエイター	24
イラストレーター、アニメーター	25	その他 ()	26
わからない	27		

Q21. 将来なりたい仕事を実現する上で、女であること、もしくは、男であることが影響(えいきょう)すると思いますか。

する	少しする	しない	わからない
1	2	3	4

DV(ドメスティック・バイオレンス)についておたずねします

以下の回答はすべて任意です。答えられる質問にのみお答え下さい。

Q22. 「DV」を知っていますか。

※DVとは、夫婦や恋人などの親しい人間関係にある人が暴力を使って相手やパートナーを思いどおりにする(支配する)こと。

どんなことが知っている	聞いたことはある	まったく知らない
1	2	3

Q23. 「デートDV」を知っていますか。

※デートDVとは、交際関係にある若者同士の間でおこる暴力のこと。

どんなことが知っている	聞いたことはある	まったく知らない
1	2	3

困ったときの相談についておたずねします

Q24. 困ったときや悩んだときに、相談できる場所を知っていますか。

知っている	知らない
1	2

■佐賀市では、困ったときに相談できる、専門の窓口があります。

- ・子どもの人権110番【虐待(ぎゃくたい)やいじめのこと】
電話 0120-007-110
- ・心のテレホン【小・中・高校におけるすべての悩みを受け止めます】
電話 30-4989
- ・ヤングテレホン【非行や犯罪被害などの悩み】
電話 0120-29-7867
- ・いじめホットライン【いじめに関すること】 電話 27-0051
- ・チャイルドライン【何となく誰かと話したい時】
電話 0120-99-7777
- ・子ども電話・メール相談【学校生活や家庭生活のこと】
電話 29-3594 kodomosoudan@city.saga.lg.jp

※「男女共同参画社会へ」パンフレットより抜粋

Q25. 1年生の時に男女共同参画の授業を受けた後、あなた自身の考え方や行動に何か変化はありましたか。

あった	なかった	わからない	授業を受けていない
1	2	3	4

Q26. ジェンダー平等や男女共同参画に対する意見などがありましたら自由に記入してください。

※ジェンダー平等とは…ひとりひとりの人間が性別にかかわらず、平等に責任や権利を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めることができること。

[]

【回答送信後】

以上で調査は終了です。

ご回答いただき、誠にありがとうございました。

「男女共同参画社会へ」パンフレットは以下よりご覧いただけます。

https://www.city.saga.lg.jp/site_files/file/2024/202409/p1i90jmluklp3hn917m98bbv9c5.pdf

男女共同参画に関する中学2年生意識調査

報 告 書

令和6年度

発行：佐賀市 政策推進部 男女共同参画課

〒840-8501 佐賀市栄町1番1号

電話 0952-40-7014